

本部事務局

【総括】

平成 27 年度は、平成 28 年 1 月 1 日「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」（マイナンバー制度）施行に向け、事業団職員の雇用管理情報全般の適正な取扱いのため、研修等へ参加し、安全管理措置対策の取扱規程及びマニュアルを策定した。管理職や事務局職員だけでなく、特定個人情報の保護に関して職員一人ひとりが法令遵守でき、かつ個人情報管理を適正に取り扱うために、施設ごとに説明会を行い、周知徹底を図った。また、平成 29 年度施行の改正社会福祉法への対応に向け、情報収集を行い、検討中である。

経営基盤の安定のため、収支均衡が厳しい養護老人ホーム長安寮の今後のあり方について、施設、本部事務局、措置権者である尼崎市との三者で、次年度の経営改善策実行に向けて検討を行い、今後の方向性を見出した。

指定管理施設では、尼崎学園の職員配置基準の見直しにより、職員を 2 名増員できるなど、小規模で家庭的なユニットでの児童の生活がより安心して充実できる体制を次年度から確保できたことは大きい。

平成 27 年 11 月には職員による個人情報を含んだ USB 紛失事故が発生したが、その後事業団要綱の策定や各施設で職員研修を実施するなど再発防止に向けた取組と職員への注意喚起を促した。

【事業計画で重点的に取り組んだ項目】

- 1 「開かれた施設」を目指して、ふれあい、社会参加などを促進するために、他施設及び地域との交流に努められるよう支援する。
- 2 各施設における運営に関する情報共有、意見交換を行い、各施設の収支の把握を行うことによる経営改善の強化、施設間職員交流に努めた。
- 3 マイナンバー制度施行に向けた安全管理措置対策を行った（特定個人情報取扱規程の制定）
- 4 養護老人ホーム長安寮の今後のあり方について、次年度の経営改善策実行に向けて検討を行い、今後の方向性を見出した。

【重点的に取り組んだ項目の達成状況】

- 1 施設連携、職員交流を目的とした全体研修、施設間交流を主任等会議が企画運営の中心となり実施した。また、事業団広報誌「スマイル∞（スマイルエイト）」（愛称を職員の公募で決定、5月に表彰）年 3 回発行し、施設間の情報共有、交流に役立てた。

- 2 管理職会議では施設運営に必要な情報共有や予算執行状況の把握等を中心に、主任等会議では管理職会議の内容と同様の情報共有を図り、職員交流、施設間交流を具体化させた。
- 3 マイナンバーの取得及び管理について、事務取扱担当者（事務局職員及び各施設長）の研修機会を設けた他、全職員対象に施設毎に説明会を開催した。
- 4 定員 100 名を見直し、50 名定員とし、収入の増加と光熱水費の削減による収支の改善を図るとともに、利用者のニーズに応えられる施設づくりを目指すこととした。

【理事会の開催状況】

1 理事会

開催日時	会場	審議事項
27. 5. 28(木) 13:00～	尼崎市議会棟 第3委員会室	議案第1号 社会福祉法人尼崎市社会福祉事業団 決裁規程の一部を改正する規程について 報告第1号 平成 27 年4月1日付社会福祉法人 尼崎市社会福祉事業団役職者の人事異動について 報告第2号 平成 26 年度社会福祉法人尼崎市社 会福祉事業団事業報告について 認定第1号 平成 26 年度社会福祉法人尼崎市社 会福祉事業団収支決算について
28. 3. 29(火) 13:00～	尼崎市議会棟 第3委員会室	議案第1号 社会福祉法人尼崎市社会福祉事業団 特定個人情報取扱規程の制定について 議案第2号 社会福祉法人尼崎市社会福祉事業団 職員就業規則の一部を改正する規則について 第3号議案 社会福祉法人尼崎市社会福祉事業団 職員給与規程の一部を改正する規程について 議案第4号 社会福祉法人尼崎市社会福祉事業団 特別職員就業規程の一部を改正する規程について 議案第5号 平成 28 年度社会福祉法人尼崎市社 会福祉事業団事業計画及び予算 議案第6号 社会福祉法人尼崎市社会福祉事業団 役員を選任について 報告事項 ・中期運営計画について ・尼崎学園職員による USB メモリー紛失に対する 再発防止の徹底について ・尼崎学園運営における業務改善計画書に基づく 取組実施状況について

2 監事監査

開催日時	会場	審議事項
27. 5. 26 (火) 10:00~11:00	尼崎市立身体障害者福祉センター研修室	平成 26 年度事業及び収支決算について ○予算執行及び財産の状況 (資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表、財産目録、付属明細書、振替伝票、総勘定元帳、証ひょう他) ○業務執行状況

3 役員の退任・選任の状況

選任役員（五十音順）

(1) 就任役員

27. 8. 11 理事 丸岡 鉄也・辻 修（尼崎市議会議員）

(2) 退任役員

27. 7. 6 理事 北村 保子・辻 修（尼崎市議会議員）

28. 3. 31 理事長 村山 保夫（尼崎市副市長）

理事 俵 雄次（尼崎市企画財政局長）橋本 創（尼崎医師会副会長）
山田 武男（尼崎市こども青少年局長）

【監査状況及び結果】

1 尼崎市健康福祉局法人指導課 養護老人ホーム長安寮への指導監査等

(1) 平成 27 年 7 月 24 日業務管理体制の整備にかかる書面検査結果について、次のような指摘を受けた。

届出事項に変更があったときは、遅滞なく、介護保険事業担当へ変更の届出を行うこと

その後法令遵守責任者の変更届及び是正報告書を提出し、改善した。

(2) 平成 28 年 2 月 19 日業務運営状況について、養護老人ホームに対する指導監査を受けた結果、次のような指摘を受けた。

① 職員の配置状況：常勤の看護職員を早急に配置すること

② 労務管理：宿直者の配置に際しては、労働基準監督署から「断続的な宿直又は日直勤務許可」を受けること。（宿直勤務の時間等が変更されており、許可を受けている内容と実態が異なるため）

看護職員の配置については、看護師（正規職員）を募集しているが、現在まで採用に至っていない。欠員への対応として、派遣会社との契約による看護師とパートアルバイト看護師で入所者の健康管理を維持している。

宿直者の配置については、尼崎労働基準監督署に対し、平成 28 年 3 月 10 日「断続的な宿直又は日直勤務許可」を申請し、3 月 17 日に同申請の許可を受けた。

(3) 平成 28 年 2 月 19 日業務運営状況について、特定施設入居者生活介護事業所に対する指導監査を受けた結果、概ね適正な事業運営が確保されていると認められた。

2 尼崎市健康福祉局法人指導課 母子生活支援施設サン野菊尼崎への指導監査

平成28年3月11日児童福祉施設に対する指導監査を受けた結果、概ね適正な事業運営が確保されていると認められた。

なお、助言事項の積立金の使途等については、施設整備等積立金使用計画書を作成した。

【職員状況】

1 採用

27.4.1 正規職員1名（身障センター）、嘱託員6名（身障センター1名、たじかの園2名、デイサービスセンター1名、あこや学園2名）

27.7.1 正規職員1名（デイサービスセンター）、嘱託員1名（長安寮）

27.1.1 嘱託員1名（デイサービスセンター）

2 退職

27.5.22 嘱託員1名（デイサービスセンター）

27.9.30 正規職員1名（長安寮）嘱託員1名（長安寮）

28.1.31 嘱託員1名（長安寮）

28.3.31 正規職員4名（たじかの園3名、あこや学園1名）嘱託員3名（たじかの園1名、あこや学園2名）

3 職員配置状況（平成28年3月31日現在）

所属	正規職員	嘱託員	アルバイト	計
本部事務局	4(1)	0	1	5(1)※1
母子生活支援施設サン野菊尼崎	3	2	4	9
身体障害者福祉センター	7	4	9(1)	20(1)※2
尼崎学園	15	2	21	38
たじかの園	20	8	9	37
長安寮	5	6	12	23
身体障害者デイサービスセンター	2	4	13(1)	19(1)※2
あこや学園	8	16	9	33
合計	64(1)	42	78(1)	184(2)

※1 本部事務局(1)市派遣職員を含む。 ※2 身障センター、デイサービスセンターのアルバイト(1)は兼職 合計の(2)は再掲

4 採用試験実施状況

実施日	募集職種
27.6.8	看護師・介護員
27.7.28	介護員
27.12.2	介護員
27.12.21	理学療法士
28.1.25	相談支援専門員
28.1.26	児童指導員・保育士
28.2.1	児童指導員・言語聴覚士
28.2.8	保育士

28. 2. 22	相談支援専門員・体育指導員・少年指導員
28. 2. 29	保育士

内定辞退等が続いていたたじかの園臨床心理士を、嘱託員として平成 27 年 4 月に配置でき、保育所等訪問支援事業の件数増を図ることができた。また、デイサービスセンターに利用者の医療的ケアの充実のため、同年 7 月に正規職員の看護師を配置した。

一方、長安寮では正規職員の看護師の退職後、欠員となり、募集しているが応募者がいない状況が続いている。

平成 27 年度末は退職する職員が例年に比べ多く、計画的に採用を進めたが、急な退職となった一部職種は欠員補充が追い付かなかった。

福祉関係の専門職は、業界全体でも依然雇用困難な状態が続いており、職員の面談や就労意思確認の調査票の提出などを早期に求めるほか、魅力ある職場としてアピールできる就労継続策等新たな方策の検討を進めていく。

【会議及び研修会】

1 会議等の開催状況

開催回数	内容	場所
年 8 回	管理職会議	尼崎市立身体障害者福祉センター研修室他
年 11 回	主任等会議	尼崎市立身体障害者福祉センター研修室他
年 4 回	広報委員会	尼崎市立身体障害者福祉センター研修室
年 3 回	長安寮あり方検討会	養護老人ホーム長安寮

2 職員研修会等開催状況

開催日	内容	場所	参加者数
27. 4. 1	平成 27 年度新規採用職員研修	尼崎市立身体障害者福祉センター研修室	7
27. 7. 1	平成 27 年度新規採用職員研修	尼崎市立身体障害者福祉センター研修室	2
28. 1. 5	平成 27 年度新規採用職員研修	尼崎市立身体障害者福祉センター研修室	1
27. 11. 25	事業団内交流研修「障がい者スポーツ」	尼崎市立身体障害者福祉センター体育室、あこや学園	48
28. 1. 13 1. 20	全体研修「苦情を受ける心構えについて」	尼崎市尼崎学園 尼崎市教育・障害福祉センター第一研修室	88
随時	施設間交流研修	事業団各施設	8

平成 27 年度は、主任等会議から提案された交流を目的とした障がい者スポーツの体験や苦情を受ける心構えを学ぶ機会を持つことができた。広報誌の発行と合わせ、事業団内の顔の見え

る関係は徐々に深まってきている。

3 会議・研修等への参加状況

開催日	内容	場所	参加者
随時 6～11月	マイナンバー法関係説明会・セミナー等	㈱OBC 大阪支店富国生命ビル他	課長補佐・係長・主任・事務員
6.3	尼崎市要保護児童対策地域協議会代表者会	尼崎市小田支所	係長
6.18	園田地区人権問題講演会	園田公民館	常務理事
6.25	全事協近畿ブロック第1回定例会議	橿原ロイヤルホテル	常務理事・課長補佐
7.24	全事協「社会福祉法人会計に関する研修」	大阪ガーデンパレス	課長補佐
全4回 7～10月	ワーク・ライフ・バランスキーパーソン養成講座	兵庫県中央労働センター	係長
8.20	債券運用基礎講座	野村証券㈱大阪支店	係長
8.27	ワーク・ライフ・バランス基礎講座	兵庫県中央労働センター	課長補佐
10.22・ 23	第49回全国社会福祉事業団大会	名鉄グランドホテル	常務理事
10.27 3.2	全事協近畿ブロックワーキングチーム会議	大阪府社会福祉会館	課長補佐
11.6	協会けんぽメンタルヘルスセミナー	尼崎市中小企業センター	係長
11.24	全事協近畿ブロック第2回定例会議	ホテル日航姫路	常務理事・課長補佐
12.1	退職金制度事務説明会	シーサイドホテル舞子ビラ神戸	係長
12.9	障害者差別解消・雇用支援セミナー	新長田ピフレホール	課長補佐
1.27	改正障害者雇用促進法説明会	尼崎リサーチ・インキュベーションセンター	係長
2.4	公正採用人権啓発担当者研修会	ハーティ21	常務理事
2.9	全事協近畿ブロック「専門性を向上させる研修」	京都テルサ	係長
2.16	全事協近畿ブロック「防災にかかる研修」	大阪府社会福祉会館	課長補佐
2.17	改正障害者雇用促進法説明会	神戸クリスタルタワーホール	課長補佐
2.19	経済センサス説明会	大阪府社会福祉会館	課長補佐
2.25	障害者雇用給付金制度事務説明会	ポリテクセンター	係長・主任

3.10	H27 年度社会福祉法人研修会（社会福祉法改正内容説明会）	神戸文化ホール	常務理事・課長補佐
3.11	社会福祉法人財務管理研修	兵庫県社会福祉研修所	課長補佐

【その他】

1 人材確保

- (1) 職員採用試験の随時実施
- (2) 採用募集方法の工夫…事業団ホームページの活用、効果的な求人広告媒体利用など

2 人材育成、職員間交流

- (1) 主任等会議の開催
- (2) 広報誌の発行（広報委員会の設置）
- (3) 交流を目的とした職員研修の実施

3 労務管理

- (1) セクシャルハラスメント・パワーハラスメント等の外部相談窓口の設置（継続）
- (2) 職員健康診断後の産業医の意見聴取（産業保健センターの活用）を要精密検査、要治療の職員へ告知し、職員自身の健康管理に役立てた。

4 社会貢献、地域貢献

- 「地域いきいき健康づくり協力団体」、「ひょうご仕事と生活の調和推進企業」への登録（継続）

5 事務処理の効率化、過誤発生防止体制づくり

- (1) 銀行振込システムの切替による期限管理と振込手数料の削減
支払や請求事務の過誤発生防止、進捗状況の可視化

母子生活支援施設サン野菊尼崎

【総括】

母の安定した就労で、計画的に一定の額を貯蓄して経済的に自立のメドがつき、退所に結びついた世帯が多い一年となった。一方で、母自身が不適切な生活環境で育ったことに起因する生活能力、養育能力の低さによって、家族として社会的に自立した生活を維持することが当面の目標とせざるを得ない母のいる世帯もあり、何よりも子どもの育ちの保障のために最低限の居室内の衛生環境保持、食習慣の是正、虐待とも取られかねない養育態度の改善など、生活全般にわたって職員が直接支援や助言を行わなければならない場面が頻発しているのが現状である。

疾病などで母が緊急入院した場合や、疾病に対する理解に乏しい母の子が感染症になった場合などでは、一定の医療知識や配慮と対応を必要としており、その特徴や留意点を把握したうえで、職員間で情報の共有をはかり、深刻な事態に陥ることを回避してきた。

平常時においては事業全般のなかで起こりうる事故の予見可能性と、発生時の事業継続の在り方について、安全確保の体制の向上の観点から取り組みをすすめている。

【事業計画で重点的に取り組んだ項目】

- 1 退所者の住宅・転職・子育て・家族関係調整などの相談を受け、地域で孤立することがないように支援した。
- 2 実施事業について事前に母の意見・子どもの要望を取り入れる機会を増やした。
- 3 潜在的に入所の必要な母子に入所していただくために各方面に情報発信を行った。

【重点的に取り組んだ項目の達成状況】

- 1 サン野菊尼崎の第一期マスタープランの実施を図り、サービスの質（支援）の向上を目指す。
第三者評価事業の結果（講評）において、施設の開放をはじめ、ソーシャルワーク機能も含めた施設が持つ専門的技術や情報を地域に提供する取り組みの弱さが指摘されており、改善に向けて、他施設の支援状況の情報収集、地域特性の分析を踏まえて、どの取り組みが効果的であるかを探るために施設内外の研修受講などを行い、施設内会議などで継続的に検討を行っている。
- 2 サン野菊尼崎に来てよかったと思われる施設運営及び入所者支援の充実に心掛けし、入所者には、母子行事等も好評で入所してよかったと喜んでいただいている。
- 3 入所充足率が50%に留まり、歳入が減っている状態から引き続き潜在的に入所の必要な母子の入所者確保をめざすため、施設内保育機能、相談支援体制の充実に前面に押し出し、各方面に情報発信を継続的に行った。

【事業内容】

1 母への支援

(1) 生活支援の内容

- ① 離婚、親権、債務過重等の課題を抱える利用者に対して、必要に応じて手続きの同行、相談等を行った。
- ② 生活能力や養育能力に課題のある利用者に対して、家事や育児のアドバイスをを行い、その必要に応じて行政相談窓口や医療機関を紹介し、複雑な場合は手続き等の説明や窓口へ同行するなどの支援を行った。
- ③ 安心して仕事や就労活動が続けられるように補完保育を行うとともに、急な残業の場合の保育園等への送迎代行、通院時等には、子の一時預かり等の育児支援を行った。
- ④ 退所後の住居に関して、公営住宅への申し込み援助、良好な環境な民間アパートの情報提供を行った。

(2) 就労支援

入所間もない中で勤務先を探している母や、転職を考えている母に求人情報の収集や提供を行うとともに、就労の継続が不安定な者に対しては、断続的に面談を行い、就労意欲を維持できるように支援した。

(3) 心理面の支援

日常的な声かけ等により精神面をサポートするとともに、精神疾患を抱える入所者に対しては、医療機関につなぐなど、心身の安定等の支援を行った。

2 子どもへの支援

(1) 学習支援

学童保育へ通う児童が多いものの、帰宅後に学校での宿題を中心に職員による学習支援を行った。また、高校生には学習支援ボランティアによる個別指導を新たに導入し、学力の維持を図った。

(2) 豊かな経験への支援

入進学お祝い会、季節ごとの行事のほか、母の日のプレゼント制作を行うなど、大人との良好な関係を築き、一年を通してこころ豊かに過ごす経験ができるよう支援した。

また、学校の長期休業時に、県協議会加盟施設の児童対象合同行事への参加や施設内外で児童だけを対象にした外出体験を行った。

(3) 健全育成

母子関係に留意し、子どもそれぞれの個性を尊重しつつ社会性が身に付くよう生活指導などを行った。また、いじめや不登校などの問題、母の養育能力に起因する問題では、学校との連携、専門家に助言を求めるなど、児童の自立支援強化に努めた。

3 施設内外の行事参加の働きかけ

母と子どもが施設での生活を楽しみ、職員や他の入所者との親交を深め、日頃のストレスを発散させることと、母子がともに同じ時間を過ごし、いろいろな経験を積み重ねることで自信をつけることを目的に、季節行事（子どもの日のお祝い会、クリスマス会、

ひなまつり会)や、日帰り旅行(神戸どうぶつ動物王国)を実施した。

4 補完保育

補完保育室を設けて保育士を配置し、密接なかかわりを必要とする乳幼児の保育を行うとともに、母の体調不良時などに一時預かりを行い、生活の維持に寄与した。

5 安全管理

- (1) 日常的に管轄警察署や教育機関等と連携を図るとともに、夜間時に機械警備の業務委託を締結している。
- (2) 防犯カメラを設置している。
- (3) 児童福祉施設最低基準に基づき、施設内での火災などを想定した避難訓練を毎月実施したほか、大規模災害発生や不審者侵入を想定した訓練を行った。
- (4) 生活習慣病・感染症・食中毒・風邪の予防等の健康・衛生面や、誤飲事故をはじめとする居室内で起こりうる事故の防止、自転車保険の加入などについて、入所者への注意喚起、掲示板での情報提供を行った。
- (5) 快適な養育環境を保持するため、入所者の居室部分は定期的に職員による居室点検を行い、点検シートをもとに、著しく不適正な環境にある居室には指導を行った。

【事業実績】

平成 27 年度は入所 6 世帯、退所が 7 世帯であった。

1 入所世帯の状況(平成 28 年 3 月 31 日現在)

- ・ 27 年度末入所者数 9 世帯 22 (うち児童数 13)
- ・ 市内・県内外別 尼崎市内… 8 県内市町… 1 県外… 0
- ・ 主たる入所理由(年度内入所者) 住居困難… 4 DV… 1 父から子への虐待… 1
- ・ 在籍年数 5 年以上… 1 3～5 年以上… 0 1～3 年… 5 1 年未満… 3
- ・ 就労者の状況 常勤… 1 パート・アルバイト… 7 無職… 1
- ・ 母の年齢構成 10 代… 1 20 代… 2 30 代… 5 40 代… 1 50 代… 0
- ・ 子の年齢構成 乳幼児… 9 小学生… 3 中学生… 0 高校生… 1

2 退所世帯の状況(年度内の総数:主な退所理由)

- ・ 一般住宅入居による… 4 再婚… 0 共同生活になじめない… 1 母子分離… 1
- ・ 子の他施設措置変更… 1

3 補完保育室(年度内)

- ・ 利用日総数… 246 日
- ・ 利用児童延べ人数… 362 人(うち一時預かり… 51 人)
- ・ 入所児数(年度内退所含む)… 6 人

※ 詳細は実績報告資料編 1 「入所者等の状況」を参照のこと

【職員研修及び会議等】

主な研修及び会議の参加状況は下記のとおり。

兵庫県母子生活支援施設協議会定例研究会及び合同職員研修会… 4 回計 14 人

兵庫県母子生活支援施設協議会職員部会(母子支援員、少年指導員)… 7 回計 10 人

全国母子生活支援施設研究大会(名古屋市)… 1 人

近畿母子生活支援施設職員研究大会（大阪市）… 1人

DV被害者支援関係機関担当者向け研修会（明石市）… 3人

日本子ども虐待防止学会学術集会（新潟市）… 1人

※ 詳細は実績報告資料編2「会議・研修等への参加状況」を参照のこと

【その他】

1 施設の周知

- ・ 市内の主任児童委員の学習会に出向き、母子を世帯ごと支援できる施設の特長を中心に、施設の役割や事業の目的などを説明し、入所促進に努めた。
- ・ 園田地区、立花地区の民生児童委員に対して施設見学ならびに施設の役割の説明を行った。

2 非常災害訓練

(1) 消防署との合同消防訓練 27年5月20日（参加22人）

(2) 自衛消防訓練 27年4月15日、6月17日、7月15日、
8月19日（夜間想定）、9月16日、
10月21日、11月18日、12月16日
28年1月20日、2月17日、3月16日
（延べ参加234人）

(3) 不審者対応訓練 27年11月18日（参加19人）

(4) 防災伝達訓練（県母協加盟施設） 28年1月19日

実績報告資料編（母子生活支援施設サン野菊尼崎）

1 入所者等の状況

(1) 在籍者状況

① 月別在籍人員

年 月 区 分		27									28			合 計
		・ 4	5	6	7	8	9	10	11	12	・ 1	2	3	
初 日 在 籍	世帯 数	10	11	11	11	11	11	10	11	10	10	11	10	延べ世帯 127
	人数	25	28	25	25	25	25	23	25	23	23	26	24	延べ 人 297
入 所	世帯 数	1	1	0	1	1	0	1	0	0	1	0	0	延べ世帯 6
	人数	3	2	0	3	2	0	2	0	0	3	0	0	延べ 人 15
退 所	世帯 数	0	1	0	1	1	1	0	1	0	0	1	1	延べ世帯 7
	人数	0	5	0	3	2	2	0	2	0	0	2	2	延べ 人 18

② 退所理由

理 由 別	世帯数
再婚	0
復縁	0
一般住宅入居	4
母子分離	1
共同生活になじめない	1
その他（他施設措置変更）	1
計	7

③ 主たる入所理由（年度内実数）

理 由 別	世帯数
住宅事情	4
不就労・ギャンブル	0
所持金不足	0
借金	0
精神的疾患など	0
夫（内夫も含む）の暴力	1
夫から児童への虐待	1
計	6

④ 在籍期間

区 分 \ 期 間	1年 未満	1～ 2年 未満	2～ 3年 未満	3～ 4年 未満	4～ 5年 未満	5年 以上	合計 (世 帯)	平均期間
28.3.31 現在 世帯数	3	2	3	0	0	1	9	1年10ヶ月
27年度 退所世帯数	3	0	0	3	0	1	7	2年1ヶ月

⑤ 母親の年齢

区 分 \ 年 齢		10歳 代	20歳 代	30歳 代	40歳 代	50歳 代	合計 (人)	平均年齢 (歳)
27 年 度	入所	2	2	1	1	0	6	27.8
	退所	1	1	4	1	0	7	31.8
28.3.31 現在 在籍者数		1	2	5	1	0	9	31.5

⑥ 補完保育室月別在籍児状況

(単位 人)

区 分 \ 年 月	27												28			合 計
	・ 4	5	6	7	8	9	10	11	12	・ 1	2	3				
開所日数	22	18	22	22	21	19	21	20	19	19	21	22	246日			
初日在籍 児童数	0	1	1	1	1	2	2	3	2	1	2	2	延べ人数 18			
入所 児童数	1	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	延べ人数 4			
退所 児童数	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	延べ人数 2			
利用日 児童数	5	12	19	18	10	26	39	54	37	18	35	38	延べ人数 311			
一時預かり 利用児童数	12	2	2	8	8	4	1	1	1	6	2	4	延べ人数 51			

⑦ 入所相談件数の状況

年 月 区 分	27									28			合 計
	・ 4	5	6	7	8	9	10	11	12	・ 1	2	3	
市内	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3件
市外(県内)	1	0	1	2	3	3	1	1	2	0	1	0	15件
市外(県外)	0	2	0	0	2	1	1	1	0	0	0	0	7件

⑧ 行事等の実施状況

(単位 人)

実施日	内 容	参加人数
27. 4. 3	春休み子ども行事 (外食体験)	5
4. 3	関学・神女 高校生ボランティア来訪	3
4. 15	入学進級おめでとう会	21
4. 25、28、30	母の日のプレゼント制作	8
4. 29	春の子ども会	3
5. 1	子どもの日のお祝い会	25
6. 14	兵庫県母子生活支援施設協議会合同潮干狩り	22
7. 7	七夕かざり	20
7. 19	なつまつり	40
8. 7	兵庫県母子生活支援施設協議会合同ピクニック	2
8. 20	夏休み児童行事 (映画鑑賞)	2
10. 31	ハロウィン	6
11. 8	兵庫県母子生活支援施設協議会合同レクリエーション	13
12. 20	親子日帰り旅行 (神戸どうぶつ王国)	18
12. 20	クリスマス会	23
28. 2. 3	豆まき	7
2. 26	ひなまつり会	21
該当月	お誕生日会	延べ 243

2 会議・研修等への参加状況

(1) 兵庫県母子生活施設協議会関係

実施日	内 容	場 所	参加者
27. 4. 10	定例施設長会議	兵庫県福祉センター	施設長
5. 14	協議会総会	兵庫県福祉センター	施設長、指導員 1 人
5. 28	第 1 回定例研究会	甲南大学	指導員 2 人
6. 3	母子支援員職員部会	兵庫県福祉センター	指導員 2 人
6. 25	少年指導員職員部会	兵庫県福祉センター	指導員 1 人

7. 5	第 1 回職員合同研修会	兵庫県福祉センター	施設長、指導員 5 人
7. 10	協議会理事会、定例施設長会	兵庫県福祉センター	施設長
9. 11	定例施設長会議	兵庫県福祉センター	施設長
9. 30	少年指導員職員部会	白鷺園	指導員 1 人
10. 7	母子支援員職員部会	兵庫県福祉センター	指導員 2 人
11. 6	面接交流説明会	兵庫県庁	施設長、指導員 2 人
11. 27	協議会合同行事反省会・施設長会	兵庫県福祉センター	施設長、指導員 2 人
12. 2	母子支援員職員部会	兵庫県福祉センター	指導員 2 人
12. 8	第 2 回定例研究会	伊丹市立労働福祉会館スワンホール	施設長、指導員 2 人
28. 1. 20	定例施設長会議	兵庫県福祉センター	施設長
2. 7	第 2 回職員合同研修会	兵庫県福祉センター	施設長、指導員 4 人
2. 10	少年指導員職員部会	兵庫県福祉センター	指導員 1 人
2. 17	母子支援員職員部会	兵庫県福祉センター	指導員 1 人
3. 9	県母協施設長会議・理事会	ファミリエひかり	施設長

(2) その他の研修などへの参加状況

実施日	内 容	場 所	参加者
27. 5. 12～21	平成 27 年度 DV 基礎知識研修	ひょうご共済会館	指導員 1 人
7. 16～17	平成 27 年度近畿母子生活支援施設研究大会	KKR ホテル大坂	施設長
9. 2	DV 相談担当者研修会	ひょうご共済会館	施設長
10. 15～16	第 59 回全国母子生活支援施設研究大会	ホテルメルパルク名古屋	施設長
11. 13	事業団職員研修 施設間交流	身体障害者福祉センター	指導員 2 人
11. 20～21	日本子ども虐待防止学会第 21 回学術集会にいがた大会	朱鷺メッセ	指導員 1 人
11. 29	面会交流支援団体フォーラム 2015	立命館大学朱雀キャンパス	指導員 1 人
28. 1. 13	事業団職員研修 全体研修	尼崎学園	指導員 2 人
1. 29	DV 家庭の子ども虐待事例検討会	中央こども家庭センター	施設長、指導員 1 人
2. 9 3. 7、8、18	兵庫県児童福祉施設基幹的職員研修	兵庫県福祉センター、兵庫県農業共済会館	指導員 1 人

尼崎市立身体障害者福祉センター

【総括】

尼崎市立の障害者社会参加促進施設として、「リハビリ部門」「相談支援部門」「文化教養・スポーツ講座部門」の3つの柱を中心に、各部門において積極的に事業に取り組んだ。

市の厳しい財政状況もあり、これまで取組んできたセンター事業内容の再検討も前年度に引き続き行なった。センターの課題である「若年層を含めた新規利用者をどのように増やすか」と「尼崎市の障害者施策の推進」の点についても積極的に取り組んだ。

身障センターは各種の専門職の職員集団で構成されており、「リハビリ部門と相談支援部門」「相談支援部門と文化教養・スポーツ部門」など、部門間で連携を図り、専門知識を活かして利用者に有益となるようアプローチを行い、成果をあげつつある。

【事業計画で重点的に取り組んだ項目】

- 1 「指定自立訓練（機能訓練）」の受入体制の充実と受入人数の増加
- 2 指定特定相談支援事業所としての「サービス等利用計画」の作成の促進
- 3 事業の効果的・効率的な運営に向けた事業展開の検討

【重点的に取り組んだ項目の達成状況】

リハビリ部門を強化するために理学療法士・作業療法士・保健師の専門的立場でリハビリ訓練の内容等について議論し、見直しを進めた。具体的には、リハビリ訓練（センターリハビリ・指定自立訓練）をこれまでは1対1の関係で全ての訓練を行ってきたが、利用希望者が増加する中で無理が生じてきた。このため、療法士と利用者が1対2、1対3などというように個別的な訓練から集団的（複数人）なりハビリ訓練を新たな取り組みとして試行している。

指定自立訓練（機能訓練）の受入については、サービス管理責任者を中心に療法士と相談支援専門員の協力関係によりこれまで相談支援専門員が関わってきている利用者の中からも自立訓練を行っている。このように複数の専門職員が関わることで利用者の生活の質の向上が図られている。

また、相談支援専門員による「サービス等利用計画」作成の促進として、

- ・「サービス等利用計画」についての説明会をセンター利用者に対して行なった。
- ・指定自立訓練（機能訓練）を受けている利用者を計画の作成に結び付け、総合的な援助ができるようになった利用者もあった。
- ・新たに相談支援専門員の有資格者養成研修を受講し資格を得ることもできた。

【事業内容】

若年層を含めた新規の利用者が増えるように、意識的に事業に取り組んだ。具体的にはリハビリ部門の集団的なリハビリ訓練に、若年層に興味がありそうな内容を取り入れた。例えば「図工クラブ」と称して「暑中見舞いを作ろう」「造形活動を楽しもう」として実際に暑中見舞い用スタンプを作成したり、手先の筋力を利用した作品作りなどの内容を実施した。このほか音楽療法士を講師に、「音楽訓練」を実施した。歌を歌ったり、楽器を演奏することで利用者の自己表現の幅を広げていった。カラオケ機器を使った「カラオケ」も内容に取り入れ、自己呼吸を活かしたりリハビリに結び付けられるように工夫した。

「文化教養・スポーツ講座」では、既存の講座を見直し、障害が原因で握力が弱くなっている障害者の方でも、テニスを楽しみたいという声を反映したスポーツ講座の「ユニバーサルテニス講座」は参加者には好評を博した。また、地域の障害者事業所への体育指導員が出向く派遣事業として、知的障害者を対象とした「運動トレーニング」「ドッジボール」等の運動療法を実施した。

12月の障害者週間にあわせて障害者と健常者、またセンターと地域の方々との交流促進事業である「身障センターのつどい」を創立30周年記念事業として実施し、約300名の参加があった。

さらに「センター利用者アンケート」を行ない多数の利用者の意見をいただき事業に反映させてきた。

1 自主事業

(1) 相談事業

① 更生・医療・福祉相談

在宅の障害者とそのご家族、介助者等を対象に福祉制度や用具の利用・紹介、権利擁護相談を行った。

② 療育相談

児童精神科医の協力を得て、就学前の発達に遅れのある子どもに対し、主として遊戯療法や保護者の面接指導を行った。

(2) 機能訓練

① 指定自立訓練

障害者総合支援法に示される一定期間（18か月）の機能訓練が必要とされる身体障害者を対象に行なった。身体機能の改善、社会生活力の獲得等、個々の障害程度、年齢、生活状況などを踏まえた個別支援計画を作成し、理学療法士・作業療法士・保健師・相談員等の連携により支援を行った。

② センターリハビリ

指定自立訓練対象者以外の方、疾病や事故等の後遺症で身体に障害がある方などを対象に、理学療法士や作業療法士が日常生活における身体機能の維持を図る機能訓練を実施した。また、自宅でできるリハビリ指導を訪問して実施した。ご家族の介助負担軽減にも貢献した。

(3) 芸術・文化講座

趣味の拡大と教養の向上、社会参加と交流の場の提供を目的に、外部講師による音

楽、生花、絵画などの講座を実施した。パソコン講座は、地域との連携を含め園田学園女子大学において、肢体障害者及び視覚障害者の障害種別ごとに開催した。同大学の協力により学生ボランティアが参加者の支援に加わり、好評であった。

(4) 生活訓練事業

センター利用者のうち、日常生活で栄養指導を必要とする障害者を対象に、保健師と外部の栄養士による栄養指導（年3回）を実施した。

(5) スポーツ教室講座

楽しみながら体力の向上・維持を図り、さらに仲間づくりを目的に卓球、フライングディスク等の講座を行った。また、尼崎市社会福祉協議会ボランティアセンターの学生ボランティア講座「サマーチャレンジ」に協力し「ふうせんバレー」をセンター体育室にて開催した。この講座では障害者と健常者の学生が混合チームで編成されスポーツを通じて触れ合う場となった。

(6) レクリエーション開催事業

知的障害者を対象とした「エンジョイクラブ」では、「神戸王子動物園」の見学活動のほかに「クリスマスリース作り」「音楽療法」などの活動を行なった。

リフトバスツアーでは、「陶芸教室」「文化施設見学」を行ない障害者の学習の機会とした。

(7) 指定特定相談支援事業

利用者との契約により、対象者がよりよい暮らしを実現するために必要なサービスは何かを個別に聞き取り、関係者と調整するなどして、サービス等利用計画及び継続支援利用計画（モニタリング）を実施した。

2 尼崎市委託事業

(1) 障害者相談支援事業（障害福祉課）

尼崎市の地域生活支援事業のひとつである障害者相談支援事業では、福祉サービス及び社会資源の活用や情報の提供、ピアカウンセリング事業など、障害者とそのご家族が地域で自立した生活を継続できるような支援を行った。

(2) リハビリ学級（保健所健康増進課）

市内在住者で、疾病等で心身機能が低下し、継続してリハビリが必要であると認められた方を対象に、心身機能の維持・回復を支援した。

（主なプログラム）

- ・転倒予防、失禁予防、体力増進等を目的とした体操
- ・医師による定期的な診察
- ・医師による「再発予防教室」などの講義及び参加者懇談会
- ・ヨガ講師、音楽療法士による教室、講座

3 その他の事業

(1) 協力・派遣事業

- ① 尼崎市介護認定審査会（理学療法士）
- ② 尼崎市立保育所障害児保育巡回指導（指導員）
- ③ 全国障害者スポーツ大会及び兵庫県障害者スポーツ大会（体育指導員）
障害者スポーツ大会や競技会での審判及び役員として協力・派遣した。

④ 手話通訳事業（指導員）

(2) リフト付きバス運行事業

センター各事業の利用者の送迎運行、日常の送迎業務に支障のない範囲で、障害者団体へのバスの貸切運行を行った。

(3) 貸室事業

平日の夜間、日曜祝日を中心に障害者団体、サークル等へ会議やレクリエーション・スポーツ活動の場として貸室を行った。

(4) その他

① 広報紙「おおぞら」の発行（年4回）

② 身障センターのつどいの開催（障害者週間の時期に年1回開催）

③ 実習生等の受入（看護学生、インターンシップ大学生、中学生トライやるウィークなど）

【事業実績】

1 自主事業

(1) 相談事業

内容	延べ人数
更生相談	98
機能訓練相談	108
医療・保健相談	389
権利擁護相談	8
療育相談	131
計	734

(2) 機能訓練

内容	延べ人数
指定自立訓練（機能訓練）	300
センター訓練	637
グループ訓練	48
計	985

(3) 芸術・文化講座

講座名	開催回数	延べ人数
生花	12	115
絵画	11	79
書道	22	135
肢体障害者パソコン	6	30
視覚障害者パソコン	6	24
音楽	23	541
組紐	12	112
園芸	10	45

絵手紙	11	71
ヨガ	24	158
囲碁	12	81
言語訓練	11	110
メタボリック予防料理	6	94
計	166	1,595

(4) 生活訓練事業

事業名	開催回数	延べ人数
手話教室	8	83
保健衛生講座	2	34
栄養指導	3	3
計	13	120

(5) スポーツ教室

教室名	開催回数	延べ人数
ゲートボール・グラウンドゴルフ	10	100
卓球	40	478
フライングディスク	12	254
サウンドテーブルテニス	10	132
スポーツ・レクリエーション	20	307
スポーツ・リハビリテーション	12	152
ストレッチ&ウォーキング	12	102
スポーツ体験教室（風船バレー等）	12	101
軽スポーツ（知的障害者対象）	20	708
計	148	2,334

(6) レクリエーション開催事業

事業名	開催回数	延べ人数
エンジョイクラブ（知的障害者対象）	4	127
各種スポーツ大会	3	85
リフトバスツアー	4	89
身障センターのつどい	1	234
計	12	535

(7) 指定特定相談支援事業

内容	件数
サービス利用計画作成	12
モニタリング	3
計	15

2 尼崎市委託事業

(1) 障害者相談支援事業

① 障害種別

(実人数)

身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	高次脳機能障害
171	3	21	28	10
発達障害	難病	その他	計	
2	5	6	246	

② 相談方法 (延べ回数)

訪問	来所	同行	電話	メール
496	153	57	1,735	243
個別支援会議	関係機関	その他	合計	
49	1,195	6	3,934	

③ 相談内容 (延べ回数)

福祉サービス	障害の理解	医療・健康	不安解消	保育・教育
2,393	210	1,342	365	2
家族・人間関係	家計・経済	生活技術	就労	社会参加
534	383	413	85	142
権利擁護	その他	合計		
60	52	5,981		

(2) リハビリ学級

内容	延べ人数
リハビリ学級	1,540

3 その他の事業

(1) 協力・派遣事業

内容	延べ人数
尼崎市介護認定審査会	722
尼崎市こども課派遣事業	219
手話通訳派遣事業	205
尼崎市障害福祉課派遣事業	3

兵庫県障害者スポーツ協会関連事業	14
その他	42
計	1,205

(2) リフトバス運行事業

内容	延べ人数
平常運行	2,773
事業運行	95
貸切運行	421
計	3,289

(3) 貸室事業

場所	延べ人数
体育室	5,220
研修室	1,238
日常生活室	400
社会適応室・その他	287
計	7,145

(4) その他

内容	延べ人数
施設見学・実習など	143
ボランティア	326
その他	27
計	496

4 月別利用数

(1) 月別事業実施件数 年間 4,841 件

4	5	6	7	8	8	10	11	12	1	2	3
326	432	377	388	311	336	374	416	418	407	488	568

(2) 月別利用延べ人数 年間 22,557人

4	5	6	7	8	9	10	11	12
1,577	2,038	1,894	2,072	1,767	1,790	1,882	1,878	1,657
1	2	3						
1,763	2,052	2,187						

【職員研修及び会議等】

概要としては、以下の内容で実施した。

- ・職員会議を毎月第2木曜、第4金曜の始業後に設定し、職員全員での今後の事業運営の検討や情報共有を図った。
- ・リハビリ部門、相談支援部門別の会議及び合同会議を開催し情報共有を図った。
- ・新採職員に対する研修の他、施設内研修として定期的に権利擁護や虐待防止について学習した。
- ・相談支援従事者初任者研修など障害福祉サービスの提供に必須とされる研修の受講修了が無事にできた。

職員研修等参加状況

開催日	内容	場所	参加者
27. 4. 29	第6回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会「車いす使用者の部」	ユニバ記念陸上競技場	主任、体育指導員
5. 14	「救命講習会」	尼崎市防災センター	保健師、看護師
5. 16	第6回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会「フライングディスクの部」	三木総合防災公園	主任
5. 23	第6回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会「陸上競技の部」	三木総合防災公園	主任、体育指導員
6. 8	「救命講習会」	尼崎市防災センター	作業療法士
6. 20～21	プール指導員資格取得研修	京都市障害福祉センター	体育指導員
7. 1	社会福祉援助基礎研修	兵庫県社会福祉研修所	相談員
7. 17～20	障害者スポーツ上級指導員研修	東京多摩障害者センター	主任
7. 22～23	相談支援初任者研修	明石市民会館、兵庫県立総合リハビリテーションセンター	相談員
7. 23	てんかん基礎講座研修	大阪商工会議所	保健師
8. 21	のじぎくスポーツ大会「サウンドテーブルテニスの部」	県立障害者スポーツ交流館	主任、体育指導員
8. 21	平成 27 年度安全運転等管理者研修会	尼崎市中小企業センター	所長
8. 28	疾患別リハビリ研修	西播磨総合リハビリセンター	理学療法士
10. 1～2	障害者福祉センター管理運営研修	新潟県障害者交流センター	所長
10. 14～16	機能訓練・健康管理研修	全国障害者総合福祉センター	保健師
10. 15	あまがさき相談支援連絡会スキルアップ研修	尼崎市総合教育センター	所長、相談員
10. 23～27	全国障害者スポーツ大会	和歌山県紀三井寺公園	主任
12. 15～16	相談面接技術研修（初級）	兵庫県社会福祉研修所	相談員
28. 1. 16	阪神南圏域多職種連携フォーラム	芦屋市保健福祉センター	作業療法士
1. 20～22	相談支援従事者現任研修	兵庫県総合リハビリセンター	相談員

1.20	事業団研修「クレーム対応について」	尼崎市総合教育センター	全職員
2.16	兵庫県障害者虐待防止・権利擁護研修	神戸商工会議所	所長
2.27~28	慢性期リハビリ学会研修	神戸国際会議場	作業療法士

【その他】

総合防災訓練 （尼崎市教育・障害福祉センター内）

- ・平成27年12月11日（金） 火災想定（通報・消火・避難誘導）
- ・平成28年2月26日（金） 地震・津波想定（避難誘導・介助）

避難誘導に際しては、エレベーターが使用不能になり、車椅子を使用して4階まで上ることを想定した実地訓練を行った。

尼崎市尼崎学園

【総括】

前年度より、これまでの行事等を大幅に見直し、ユニットケアのメリットを生かした新たな施設運営のあり方を模索した。その結果、子どもの希望に応じた個別的な活動、体験の機会が増えた一方で、小グループでの活動が増えれば増えるほど職員の負担はやはり大きくなった。しかし、入所児童は自分たちで行事の選択ができるため、好評であった。

ユニットケアに移行して2年が経過し、子どもたちも新しい生活に馴染んできている。外的な刺激が減り、担当職員との関係構築がなされるにつれ、個々が抱えている本来の課題が表出されるようになり、チームケアの充実及び職員の援助技術のさらなる向上が求められる。平成28年度より職員の適正配置をし、よりきめ細かい支援の充実を目指して行きたい。

【事業計画で重点的に取り組んだ項目】

前年度に引き続き、次のとおりとした。

- 1 個々の子どもにとって各ユニットが「安全で安心できる居場所」となるように生活環境の向上及び各ユニット担当者との関係構築を重視した。
- 2 子どものニーズに適時的確に応えられるよう、柔軟性を重視した支援、施設運営に努めた。
- 3 各担当者の問題の抱え込みや孤立化を防ぐため、主任を中心としたチームケアに努めた。

【重点的に取り組んだ項目の達成状況】

ユニット会議を頻繁に行い、情報共有に努めた。それにより職員一人当たりの負担が軽減されて、入所児童の生活の質の向上が見られた。

特に社会教育活動（小規模単位）・ユニット活動及び個別活動に力を入れて活動した結果、児童それぞれの対応が可能になり、一人一人の状態、特性を考慮した活動が出来た。

【事業内容】

- 1 入所児童の自立支援（個々の自立支援計画及び各年間計画に基づき実施）

(1) 生活支援

年間計画及び個々の自立支援計画に基づき、基本的な生活習慣が習得されるように個々の心身の状況や意欲、好みを尊重し、きめ細やかな支援を心がけた。また、日常生活の中で衛生面や病気予防に対する意識が高められるように配慮した。ユニッ

ト内で配膳される食事や調理実習を通し、これまで以上に子どもの希望を取り入れながら、栄養面の配慮にとどまらず、喜びや楽しみを得られる食事となるように工夫した。

(2) 幼児保育

年間保育計画に基づき、家庭的な雰囲気の中で落ち着いた生活を送り心身の成長が図れるように支援した。特に個々の自己肯定感の向上を目指し、褒めることを重視した。

(3) 学習支援

個々に応じた目標を設定し、特に基礎学力の定着に重点をおいて支援を実施した。子どもの特性や希望に配慮し、学習ボランティアや学習塾を積極的に活用した。小学生については、学校教諭と施設職員との連携による支援が学習意欲の向上に繋がった。

(4) 性教育

日常生活の中で、子どもたちが自分の身体や命を大切にする感覚が持てるように意識した関わりを繰り返した。特にプライベートゾーンや、自己と他者との境界線を知り、守ることを重視した。また、誕生日には担当職員と一対一で外食を行うと共にユニット内でもお祝いし、一人ひとりが大切な存在であることを伝える機会とした。

(5) 自立訓練

高等学校卒業後、社会人として自立、自活できるよう、在学中のアルバイトを奨励すると共に調理、洗濯等を体験できる機会の設定を心がけた。

(6) 心理療法事業

臨床心理士を配置し、被虐待等心のケアを必要とする子どもに対し、施設内でプレイセラピー、カウンセリング等、定期的、継続的な個別心理療法を実施した。また、県こども家庭センター、児童精神科等専門機関への通所によるケアも積極的に行った。

(7) 被虐待児等に対する個別対応

被虐待児等個別の対応が必要とされる子どもへの個別面接等を随時実施した（臨床心理士による個別心理療法とは別に）。

(8) 家族調整

個々の自立支援に必要な家族関係再構築を図るため、家庭支援専門相談員を配置し、こども家庭センター、福祉事務所等の関係機関と連携し、親子関係調整に努めた。

また、家庭復帰だけではなく、里親委託の促進や措置変更等、より適切な養育環境の提供を目指した。

(9) 社会教育活動及び余暇活動としての行事

子どもの生活体験を豊かにすることや社会におけるマナーの習得を目的として、全体行事、ユニット行事、年齢別趣向別小グループ行事等を実施した。立案にあたっては、できるだけ子どもの意見を取り入れるように心がけた。

2 アフターケア

(1) 卒園生「友の会」

(2) 退所児童及び保護者に対する相談支援（随時）

3 地域子育て支援

(1) 子育て家庭ショートステイ及び一時保護委託事業

ショートステイ 11人、一時保護委託 21人

(2) 要保護児童地域対策協議会への参画（伊丹市、川西市、三田市）

【事業実績】

1 在籍状況

初日在籍児童数 平均 39.4人（平均充足率 87.5%）

(1) 月別在籍児童数 (単位 人)

年月	27									28			
区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
初日在籍児童数	36	36	37	35	39	41	42	42	42	41	41	41	延べ 473
入所児童数	2	1	0	4	2	1	0	0	0	0	0	1	11
退所児童数	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	5	8

(2) 学齢別児童数 (28. 3. 1 現在) (単位 人)

区分	未入園	幼稚園	小学生						中学生			高校生			その他	合計
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	1年	2年	3年		
男	2	2	2	0	2	2	5	0	2	2	2	3	2	2	0	28
女	0	1	0	0	2	0	0	2	2	1	1	1	1	2	0	13
合計	2	3	2	0	4	2	5	2	4	3	3	4	3	4	0	41

2 入所児童の状況

(1) 入所児童数 11人

(2) 入所理由 養育困難 7人（内1人は情短、内1人は知的障害児施設より措置変更）、被虐待 4人

3 退所児童の状況

(1) 退所児童数 8人

(2) 退所理由 家庭復帰 6人（内3人は満年齢）、措置変更 1人（里親委託）、就職・自立 1人（グループホーム入所）

【職員研修及び会議等】

1 全員職員会議

(1) 実施日（月2回）

4月15日、4月24日、5月8日、5月20日、6月5日、6月17日、7月8日、7月17日、9月9日、9月25日、10月16日、10月28日、11月6日、11月17日、12月15日、12月25日、1月13日、1月22日、2月3日、2月18日、3月2日、3月14日

(2) 内容

- ・ 行事予定及び内容の確認
- ・ 子どもの支援経過の確認及び支援方法についての議論
- ・ 職員の援助方法の点検、確認等

(3) 主な効果

- ・ 全職員が顔を合わせて情報共有、議論をするだけでなく、コミュニケーションを図る一助となった。
- ・ 日頃の疑問や不安をお互いに口にするにより自己点検、相互点検の機会となった。

2 外部研修への参加状況

実施日	内容	場所	参加者
27. 5. 13 ~14	テーマ別研修「児童虐待と性の問題」	子どもの虹情報研修センター	指導員1名
5. 15	児童福祉施設新任職員研修	兵庫県社会福祉研修所	指導員2名
5. 16~18	SBI 児童養護施設職員研修	クロス・ウェーブ梅田	指導員1名
6. 9 ~10	近畿児童養護施設研究協議会兵庫大会	ホテルクラウンパレス神戸	園長・指導員3名
6. 27~28	全国児童養護問題研究会全国大会	チサンホテル神戸	指導員2名
6. 28	県養連ステップアップ研修	兵庫県福祉センター	指導員2名
7. 1・10	社会福祉援助基礎研修	兵庫県社会福祉研修所	調理師1名
7. 23	神戸市特定給食施設研修会	兵庫県民会館	指導員2名
9. 5	社会的養護セミナー	西宮市大学交流センター	園長
10. 7~9	全国児童養護施設長研究協議会	秋田キャッスルホテル	栄養士1名
11. 12	児童養護施設給食関係者研修	JMS アステールプラザ	指導員3名
28. 1. 19	県養連情報モラル研修	兵庫県福祉センター	園長・指導員1名
2. 9	県養連キャリアアップ研修①	兵庫県福祉センター	園長・指導員1名
3. 7~8	県養連キャリアアップ研修②	兵庫県福祉センター	

【その他】

1 行事等実施状況

実施日	内容	対象児童
27. 4. 2	個別活動(有馬富士公園)	児童 3人
4. 18	社会教育活動(プロ野球観戦)	児童 8人
4. 26	ユニット活動(高校入学お祝い会)	児童 6人
4. 29	道場町民運動会	児童 28人
5. 4	ゴールデンウィーク遠足(おもちゃ王国、映画、大阪散策)	児童 30人
5. 5	社会教育活動(ローラースケート)	児童 5人
5. 8	県養連こいのぼりの集い	児童 24人
5. 17	ユニット活動(有馬富士公園)	児童 3人
5. 29	社会教育活動(プロ野球観戦)	児童 5人
5. 31	ユニット活動(潮干狩り)	児童 6人
6. 8	ユニット活動(神戸エリア散策)	児童 2人
6. 8	個別活動(映画鑑賞)	児童 4人
6. 8	社会教育活動(有馬富士公園)	児童 17人
6. 13	県養連サッカー大会	児童 6人
6. 14	ユニット活動(伊丹昆虫館)	児童 10人
6. 20	社会教育活動(Jリーグサッカー観戦)	児童 5人
7. 4	個別活動(映画鑑賞)	児童 5人
7. 12	社会教育活動(スポーツ活動)	児童 27人
7. 16	嘱託医による児童健康診断	児童 37人
7. 20	個別活動(映画鑑賞)	児童 2人
7. 24	ユニット活動(映画鑑賞)	児童 4人
7. 24	社会教育活動(プロ野球観戦)	児童 24人
7. 24	ユニット活動(フルーツフラワーパーク)	児童 3人
7. 26	ユニット活動(神戸青少年科学館)	児童 3人
8. 1~31	各ユニット旅行	児童 39人
8. 2	個別活動(だんじり鑑賞)	児童 1人
8. 3	個別活動(映画鑑賞)	児童 2人
8. 7	個別活動(映画鑑賞)	児童 2人
8. 11	社会教育活動(スナッグゴルフ)	児童 10人
8. 15	卒園生OB会(尼崎学園友の会)	元職員・卒園児 30人
8. 16	社会教育活動(スポーツ活動)	児童 27人
8. 25	社会教育活動(釣り)	児童 5人
8. 27	社会教育活動(スポーツ活動)	児童 27人
8. 28	納涼会(夜店)	児童 39人
8. 29	社会教育活動(川遊び)	児童 9人
8. 30	ユニット活動(外食)	児童 5人

8.30	県養連サッカースクール	児童	7人
9.20	ユニット活動(フルーツフラワーパーク)	児童	6人
10.2	個別活動(神戸南京町散策)	児童	1人
10.4	社会教育活動(やすらぎの里・ハロウィン)	児童	10人
10.10	社会教育活動(グラウンドゴルフ大会)	児童	18人
10.11	ユニット活動(映画鑑賞)	児童	5人
10.11	ユニット活動(音楽鑑賞)	児童	1人
10.13	ユニット活動(有馬富士公園)	児童	6人
10.25	ユニット活動(秋祭り見学)	児童	6人
10.31	社会教育活動(釣り)	児童	4人
11.3	道場町民文化祭	児童	35人
11.7	ユニット活動(有馬温泉)	児童	6人
11.7	外部団体行事(尼崎あきんど倶楽部職業体験イベント)	児童	30人
11.15	外部団体行事(焼き芋・豚汁の会イベント)	児童	11人
11.15	ユニット活動(昼食会)	児童	6人
11.16	社会教育活動(釣り)	児童	5人
11.16	社会教育活動(サーカス)	児童	10人
11.21	社会教育活動(釣り)	児童	7人
11.23	社会教育活動(プロ野球観戦)	児童	1人
11.28	県養連みんなの文化祭	児童	9人
11.29	個別活動(映画鑑賞)	児童	2人
12.5	外部団体行事(DICクリスマス会)	児童	30人
12.6	外部団体行事(クリーニング組合お餅つき)	児童	32人
12.11	ユニット活動(フルーツフラワーパーク)	児童	6人
12.13	個別活動(映画鑑賞)	児童	2人
12.23	クリスマス会第一部(お食事会)	児童	42人
12.25	クリスマス会第一部(お楽しみ会)	児童	42人
12.27	個別活動(映画鑑賞)	児童	1人
28.1.2	個別活動(映画鑑賞)	児童	1人
1.16	ユニット活動(ボウリング)	児童	6人
1.30	ユニット活動(めんたいパーク神戸三田)	児童	5人
1.30	個別活動(映画鑑賞)	児童	1人
2.6	個別活動(フィッシングショー)	児童	1人
2.9	ユニット活動(ボウリング)	児童	2人
2.11	個別活動(大阪散策)	児童	1人
2.13	ユニット活動(カラオケ)	児童	6人
2.14	ユニット活動(映画鑑賞)	児童	6人
2.16	招待行事(キッザニア甲子園)	児童	9人
2.17	嘱託医による児童健康診断	児童	41人
2.20	ユニット活動(有馬温泉)	児童	4人

尼崎市立たじかの園

【総括】

課題となっている利用者の増加、拡大にむけて検討を行い、事業を実施した。

平成 27 年度は、通園の利用日数、保育所等訪問支援の実施回数、理学療法・作業療法・言語聴覚療法等の件数が大幅に増えた。事業の効率化だけでなく、臨床心理士の嘱託採用ができたこと、育児休業取得中の代替が確保できていなかった理学療法士が復職したことも要因の一つである。一方で、障害児等療育支援事業の訪問療育等指導事業、外来療育等指導事業は減った。これは、産休・育児休業に入った言語聴覚士の代替が短期間しか確保できなかったことが要因の一つとなっている。今後も、人材の確保は、事業の安定実施の課題である。

通園では、呼吸器を使用した重症心身障害児の受け入れを開始した。昨年度入園基準を変更し、運動機能の大きく異なるお子さんが一緒に過ごす機会が増えている。集団活動の中でどのように個別に配慮していくのか検討しつつ、野菜の栽培、収穫など新しい試みを加え支援の充実に努めている。

相談支援では、通園利用者への障害児支援利用計画の作成が始まったこともあり、作成件数が大きく増えた。また、サービス等利用計画の作成が始まった。尼崎市委託障害者相談支援事業所としての実績もあり、今後もニーズが増えることが予想される。どのように対応していくかが大きな課題である。

【事業計画で重点的に取り組んだ項目】

- 1 たじかの園の診療報酬、障害児通所給付費を上げるための諸施策の検討
- 2 障害児支援利用計画作成の拡充、サービス等利用計画作成の開始

【重点的に取り組んだ項目の達成状況】

- 1 各事業について計画的、効率的実施に努めた。
- 2 たじかの園の利用者増（通園、保育所等訪問支援、診療、障害児等療育支援事業、相談支援）
業務の広報、業務分担や実施方法、遠足等行事の職員配置の見直しを行った結果、通園、保育所等訪問支援、理学療法・作業療法・言語聴覚療法等の件数が大幅に増えた。
- 3 家族を含めた利用者支援の充実
今年度から、嘱託心理職を配置し、個別の相談に応じる他、クラスおよび自由参加のグループトークングを行った。今年度からお母さんの体力づくりとストレス解消を目的に始めた「お母さんのうんどう教室」は、高評価を得た。また、ミニ講座では、尼崎市自

立支援協議会の協力を得てサポートファイルの書き方教室を実施し、就学等に向けての支援を行った。

【事業内容】

1 医療型児童発達支援

個々の子どもの発達ニーズと保護者のニーズを把握し、個別支援計画やリハビリテーション実施計画に沿った発達支援、治療を行った。

(1) 発達支援

保育、理学療法、作業療法、言語聴覚療法、発達検査、給食、単独療育、栄養相談（21件）、定期診察、定期健診（耳鼻科、眼科、歯科、エックス線検査 各年1回）、健康管理（身体測定 毎月）

(2) 家族支援

保護者勉強会（2回）、ミニ講座（26回）、お母さんのうんどう教室（16回）、家庭訪問（11件）、懇談（クラス懇談、進路懇談等）、グループトークキング（6回）

(3) 地域連携

卒退園児アフターフォロー（5人）、関係機関療育見学会（参加者28人）、保育所交流（実施3回）、グループハウス交流、実習生・見学者受け入れ（実人数38人、延べ119日）

(4) 主な行事

※事業実績 行事等実施状況を参照のこと

2 保育所等訪問支援

発達に心配のある子どもや集団での行動が苦手な子どもが通う保育所（園）・幼稚園、小学校等に、専門的な知識・技術を持つ保育士、言語聴覚士、理学療法士等の訪問支援員が月に1回程度訪問して、障害児が集団で生活しやすくなるよう個別支援計画に基づき、本人への支援と同時に担任等や保護者に対し関わりの工夫や配慮を助言した。より適切な支援が行えるよう、関係機関との連携に努めると同時に、必要に応じ複数の職種で訪問した。

今年度から、サービスの提供を概ね1年とし、効果的な支援の提供に努めた。

3 医療保険による診療

0歳から18歳までの乳幼児及び児童・生徒に対し診察を行う他、医師の指示に基づき、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士が個々の子どもの症状に応じた機能訓練、発達検査を行った。従来、機能訓練の待機期間が問題になっていたが、効率的な事業実施に努めた結果、理学療法部門では待機期間がなくなった。

4 障害児等療育支援事業

尼崎市からの委託により、たじかの園のもつ療育機能を在宅の障害児（者）や発達に不安のある子どもとその家族を中心に幅広く提供し、身近に療育相談や助言指導を行うために、本事業を実施した。

(1) 在宅支援訪問療育等指導事業 家庭や所属施設への訪問により、発達相談や療育指導、助言などを行った。

- (2) 在宅支援外来療育等指導事業 外来による発達相談、個別やグループでの療育指導、助言などを行った。
- (3) 施設支援一般指導事業 保育所、幼稚園、学校等の職員へ、講義や実技形式での実践指導を行った。

5 相談支援事業

(1) 尼崎市委託相談支援事業

障害児（者）やその家族などの相談に応じ情報の提供及び助言、その他障害福祉サービスの利用支援等を行った。また、虐待の防止及びその早期発見に努めるとともに、障害者等の権利擁護のために必要な援助を他機関と連携して行った。

(2) 指定障害児相談支援

児童発達支援（医療型含む）や保育所等訪問支援、放課後等デイサービスなどの利用をともに考え、障害児支援利用計画を作成した。また、必要に応じて関係機関とのモニタリング会議を行い、障害児支援利用計画の見直しを行った。

(3) 指定特定相談支援

訪問系サービス、日中活動系サービス、居宅系サービスの利用について、ともに考え、サービス等利用計画を作成した。また、関係機関とのモニタリング会議を行い、サービス等利用計画の見直しを行った。

(4) 指定一般相談支援

入院先や入所施設等から地域での生活へ移行時や移行後に、地域で安心して暮らし続けられるよう、基本相談支援を行った。

【事業実績】

1 医療型児童発達支援

- (1) 年間延べ契約者数 326 人 (2) 入園児数 16 人 (3) 退園児数 12 人
- (4) 年間延べ利用日数 2975 日

入園基準を変更したことで、0～2歳児の契約児童数が増え、昨年度に比べ延べ契約者数は79人、利用日数は628日多かった。

2 保育所等訪問支援

- (1) 契約者数 24 人 (3月末) (2) 年間実施回数 178 回

昨年度に比べ、契約者数は9人、延べ利用件数は72件増えた。

3 健康保険による診療

(1) 診察実績（件）

園児		外来	
小児科	リハ科	小児科	リハ科
136	27	456	112
163		568	

(2) 理学療法・作業療法・言語聴覚療法・摂食機能療法・各種検査実績（件）

昨年度に比べ、園児の件数は734件、外来件数は258件増えた。

園児	外来	合計
3,319	2,750	6,069

4 行事等の実施状況

実 施 日	内 容	対象児童	
4 月	9 日	始業式	全園児
	22 日	こどもの日のまつり	全園児
5 月	14 日	春の遠足(阪神競馬場)	全園児
	27 日	就学に関する説明会	4・5歳児
6 月	15 日	眼科・歯科健診	全園児
	21 日	にこにこ日曜参観	全園児
	24 日	耳鼻科健診	全園児
	29 日	尼崎養護学校見学会	4・5歳児
7 月	6 日	プール開き(7/6~9/7)	登園日児童
	8 日	七夕まつり	全園児
	23 日	夏のつどい	4・5歳児
8 月	7 日	1学期終了日	登園日児童
	24 日	2学期始業日	登園日児童
9 月	30 日	尼崎養護学校トライやるウィーク受け入れ	登園日児童
10 月	9 日	秋の遠足(王子動物園)	全園児
	14 日	USJキャラクターショー	登園日児童
	28 日	おいもほり	3~5歳児
11 月	1 日	たじかのっこ交流会	全園児
	11 日	お買い物散歩	4・5歳児
	28 日~4 回	エックス線検査	全園児
	20 日	関係機関療育見学会	登園日児童
12 月	16 日	クリスマス会	3~5歳児
	18 日	クリスマス会	0~2歳児
	24 日	2学期終了日	登園日児童
1 月	8 日	3学期始業日	登園日児童
2 月	3 日	豆まき	登園日児童
	22 日~14 日	たじかのっこ展(わくわく療育参観週間)	全園児
3 月	4 日	ひなまつり	登園日児童
	18 日	おわかれ会	全園児
	24 日	卒園式	全園児
	25 日	終業式	0~4歳児
毎 月	お誕生日会	登園日児童	
毎 月	身体測定	全園児	
随 時	ケースカンファレンス	全園児	
随 時	入園式	新入園児	

随 時	わくわく療育参観	希望される保護者
随 時	進路に関する相談	希望される保護者
随 時	家庭訪問	対象児童
毎月 2 回	リハビリテーション科嘱託医診察	対象児童
年間 2 回	保護者勉強会（外来講師による）	全保護者
年間 26 回	ミニ講座	登園日保護者
年間 2 回	グループハウス交流	3～5 歳児
年間 6 回	立花南保育所との保育交流	3～5 歳児

5 障害児等療育支援事業

昨年度に比べ、訪問療育等指導事業は 84 件、外来療育等指導事業は 154 件減った。一方、施設支援一般指導事業は、13 件増えた。

在宅支援訪問療育等指導事業	在宅支援外来療育等指導事業	施設支援一般指導事業
89 件	1,558 件	83 件

6 相談支援事業

(1) 尼崎市委託障害者相談支援事業

昨年度に比べ、実利用人数は 65 人、内容別のべ相談回数は、147 件増えた。

実利用人数	のべ相談回数(内容別)
424 人	4,757 件

(2) 指定障害児相談支援

3 月末の契約者数は 77 人、うち新規契約者 68 人、契約終了者 5 人だった。

障害児支援利用計画、継続障害児支援利用計画は、145 件作成した。

(3) 指定特定相談支援

今年度から、契約、サービス等利用計画の作成が始まった。

3 月末の契約者数は 10 人、サービス等利用計画、継続サービス等利用計画は 24 件作成した。

※指定障害児相談支援、指定特定相談支援の実績は資料編 3-(1)(2)参照のこと

【職員研修及び会議等】

1 研修

(1) 事業に必要な資格取得等のための研修に参加し、事業所の体制を整えた。

- ① 児童発達支援管理責任者研修（全 5 日） 理学療法士 1 名
- ② 相談支援従事者現任者研修（全 3 日） 園長 1 名
- ③ 相談支援従事者初任者研修（全 5 日） 相談員 1 名

(2) 運営や組織力向上のための研修に参加し、組織の強化を図った。

- ① 意識改革を促進する研修 園長 1 名
- ② 専門性を向上させる研修 主任 1 名

(3) 専門職の研修に参加し、知識・技術力の向上をめざした。また、伝達研修を行い、学んだ知識、技術を職員間で共有した。

- ① 脳性まひ児療育関係職種対象講習会（全 5 日） 指導員 1 名

② 脳性麻痺を伴った子どもへのホバースアプローチインフォメーション講習会

(全3日) 理学療法士 1名

(4) 職員を講師として派遣し、児童発達支援管理責任者育成に貢献した。

① 児童発達支援管理責任者研修(準備打合せを含め 全9日) 主任 1名

2 会議

(1) 教育・保健との連携を図った。

① 阪神地域特別支援連携協議会(1回) 園長

② 就学前後にかかる子どもの発達支援連絡会(3回) 園長 児童発達支援管理責任者 相談支援専門員

(2) 児童発達支援、相談支援等の動向把握に努めた。

① 全国児童発達支援協議会施設長研修会 主任

② 障害児・者相談支援事業全国連絡協議会 相談支援専門員

③ 近畿肢体不自由児療育施設連絡協議会(3回) 園長 主任 医師

(職員外部研修)

研修日程	内 容	場 所	参加者	
6 月	13 日	近肢連保育部会研修会	岸和田市立中央地区公民館	指導員
	20 日	近肢連看護部会研修会	神戸市立心身障害福祉センター	看護師
	25 日	相談支援全国連絡協議会総会コーディネーター研修会(～26日)	ホテルグリーンタワー幕張	相談員
7 月	2 日	CDS全国職員研修会(～3日)	秋田県社会福祉会館	主任
	2 日	食品衛生講習会	尼崎市中小企業センター	栄養士
	4 日	近肢連理学療法・作業療法部会研修会	大阪市東住吉会館	PT
	7 日	子どもの発達支援連携研修会(第2回)	尼崎市保健所	ST
	22 日	兵庫県児童発達支援管理責任者研修(～23日)	明石市立市民会館	PT
	22 日	兵庫県相談支援従事者初任者研修(～23日)	明石市立市民会館	相談員
	28 日	子どもの発達支援連携研修会(第3回)	尼崎市保健所	ST、指導員
8 月	29 日	職場研修プレセミナー	兵庫県社会福祉研修所	園長
	17 日	脳性まひ児療育関係職種対象講習会(～21日)	大阪発達総合療育センター	指導員
	21 日	兵庫県相談支援従事者初任者研修	西部市民会館	相談員
	23 日	ナースのための人工呼吸器を克服する集中講座	福武ジョリービル(岡山市)	看護師
9 月	24 日	兵庫県相談支援専門コース別研修	神戸市勤労会館	相談員
	3 日	兵庫県児童発達支援管理責任者研修	明石市立市民会館	PT

	5 日	近肢連給食部会研修会	青少年活動サポートプラザ	栄養士
	19 日	脳性まひを伴った子どもへのボバースアプローチ (大阪) インフォメーション講習会 (～21 日)	森之宮病院	P T
	26 日	近肢連心理相談部会研修会	守口市教育文化会館	心理士
	29 日	兵庫県相談支援従事者初任者研修 (～30 日)	福祉のまちづくり研修所	相談員
10 月	3 日	マカトン法ワークショップ (基礎 1) コース	京都府中小企業会館	指導員
	7 日	高齢障害者ケアマネジメントに係る研修会	アルカニックホール	相談員
	9 日	事業団交流研修会	尼崎市立あこや学園	栄養士
	19 日	ストレスマネジメント研修	兵庫県社会福祉研修所	園長
	24 日	近肢連言語部会研修会	神戸市立心身障害福祉センター	S T
11 月	14 日	近肢連理学療法・作業療法部会研修会	大阪発達総合療育センター	P T
	14 日	相談支援基礎研修	加古川市総合福祉会館	相談員
	14 日	呼吸障害に対する理学療法評価と基本手技 (～15 日)	神戸総合医療専門学校	P T
	25 日	施設間交流会「障害者スポーツを知ろう」	身体障害者福祉センター体育館	全職員
	27 日	兵庫県児童発達支援管理責任者者研修 (～27 日)	福祉のまちづくり研修所	P T
	28 日	近肢連看護部会研修会	神戸市立心身障害福祉センター	看護師
	30 日	障害児・者相談支援事業全国連絡協議会 (～1 日)	ホテル広島ガーデンパレス	相談員
12 月	5 日	近肢連給食部会研修会	青少年活動サポートプラザ 夢のつながり未来館 (ゆいびあ)	栄養士
	12 日	近肢連心理部会研修会	豊中市すこやかプラザ	心理士
	17 日	全事協近畿ブロック「意識改革を促進する研修」	シティプラザ大阪	園長
1 月	9 日	脳性まひに対するボバース概念イントロダクトリー講習会	森之宮病院	P T
	16 日	近肢連言語部会研修会	アステ市民プラザ アステホール 2	S T
	20 日	事業団全体研修会「苦情処理にあたっての心構え」	教育・障害福祉センター研修室	全職員
	23 日	近肢連保育部会研修会	ノバルティールホール 河内長野駅前市民センター	指導員
2 月	2 日	子どもの発達支援連携事業に関する研修	尼崎市保健所	園長、心理士
	6 日	第 2 5 回 近肢連療育研究大会	神戸市産業振興センター	O T
	9 日	全事協近畿ブロック「専門性を向上させる研修」	京都テルサ	主任
	12 日	障害福祉施設中堅職員研修	兵庫県社会福祉研修所	相談員

24 日	兵庫県相談支援従事者現任者研修（～26 日）	福祉のまちづくり研修所	園長
26 日	CDS 全国施設管理者等研修会（～27 日）	はまぎんホール ヴィアマール	主任

（施設内研修）

全 15 回	新任職員研修	たじかの園	新任職員
全 4 回	「医療ケア」、「不審者対応訓練」、「脳性まひ児療育関係職種対象講習会」「脳性麻痺を伴ったこどもへのボバース・アプローチインフォメーション」	たじかの園	全職員
その他	各部門伝達研修（PT 3 回）、自主勉強会（ST 2 回）学生症例発表（PT 2 回）	たじかの園	対象職員

（会議、連絡会など）

毎月	児童結核対策委員会	尼崎医師会館	医師		
	あまがさき相談支援連絡会	教育・障害福祉センター他	園長	主任	相談員
	尼崎市自立支援協議会 あまっこ部会会議	教育・障害福祉センター他	園長	主任	相談員
	尼崎市自立支援協議会 ガイドライン検討部会	教育・障害福祉センター他	主任		
	尼崎市自立支援協議会運営会議	教育・障害福祉センター他	主任	相談員	
年間 14 回	あまっこファイル書き方教室、説明会	教育・障害福祉センター他	主任	相談員	
年間 3 回	あまがさき相談支援連絡会 スキルアップ研修会	身体障害者福祉センター他	主任	相談員	
	就学前後にかかる子どもの発達支援連絡会	保健所集団指導室	園長	指導員	相談員
	近肢連役員会	教育・障害福祉センター他	園長	主任	医師
年間 2 回	尼崎市教育支援委員会	教育・障害福祉センター他	園長		
年間 1 回	近肢連総会	教育・障害福祉センター他	園長	主任	医師
	阪神地域特別支援連携協議会	西宮総合庁舎	園長		
	障害者就業・生活支援センター事業（雇用安定等事業）第 2 回兵庫県連絡会議	神戸クリスタルタワー 3 F	相談員		
	障害者総合支援法等事業者説明会	神戸文化ホール	園長	相談員	
	尼養移行支援会議	身体障害者福祉センター	医師		
	尼養入学選考委員会	尼崎養護学校	園長		

【その他】

1 非常災害訓練の実施

(1) 館内自衛消防訓練

平成 27 年 12 月 11 日

平成 28 年 2 月 26 日

(2) 自主訓練

- ①火災 平成27年4月27日 5月29日 7月22日 11月9日
 ②風水害 平成27年8月25日
 ③地震 平成27年9月25日 平成28年1月26日
 ④不審者対策 平成27年6月26日 10月21日 平成28年3月22日

【資料編】

1 医療型児童発達支援の状況

(1) 月別在籍児童数・延べ利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
在籍児童数(人)	21	22	23	25	25	26	27	28	30	33	33	33	延べ 326
入園児数(人)	4	1	1	2		1	1	1	2	3			16
退園児数(人)												12	12
延べ利用日数(日)	176	242	289	286	159	255	265	264	224	227	297	291	2,975
延べ出席日数	151	212	264	244	150	223	240	221	187	193	264	267	2,616

(2) 園児疾患別状況（平成28年3月1日現在）

	0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児		合計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
脳性麻痺			1				1	1		1	1	1	3	3	6
急性脳症後遺症										1			0	1	1
超低出生体重児			1	1	1			1					2	2	4
ダウン症候群	1		1	1			1						3	1	4
精神運動発達遅滞			1	2	2	2	1	2					4	6	10
その他			2	1		2		1	1	1			3	5	8
小計	1	0	6	5	3	4	3	5	1	3	1	1	15	18	33
合計			11		7		8		4		2		33		

(3) 平成27年度 卒・退園児進路状況

		0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
卒園	尼崎養護学校						2	2
	特別支援学級							0
退園	あこや学園					2	2	4
	転居	幼稚園						0
		在宅						

	他施設													0
	保育所・幼稚園													0
	死亡													0
	他施設						2	2						4
	在宅（長期入院含む）						1	1						2
	合 計	0	0	3	5	2	2	12						

2 保育所等訪問支援 月別契約者数・利用日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
契約者数（人）	17	18	22	24	24	25	25	25	24	24	24	24	276
利用日数（日）	9	14	19	18	9	23	17	11	15	16	11	16	178
訪支援員訪問延べ回数（回）	12	20	30	29	13	33	25	18	23	23	14	22	262

3 相談支援事業

(1) 指定障害児相談支援

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
契約者数（人）	29	31	37	51	58	62	65	67	69	73	73	77	
新規契約者数（人）	18	4	6	14	7	4	3	2	2	4	0	4	68
契約終了者数（人）	2											3	
障害児支援計画作成者数（人）	23	4	11	18	7	29	23	4	10	7	5	4	145

(2) 指定特定相談支援

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
契約者数（人）			1	1	2	3	4	5	5	5	6	10	
新規契約者数（人）			1		1	1	1	1			1	4	10
契約終了者数（人）													
サービス等利用計画作成者数（人）			2	1	3	3	2	2	2		2	7	24

養護老人ホーム長安寮

【総括】

養護老人ホームとして入所者の人権を守り、明るく豊かに生きがいのある生活を送ることができるよう、入所者一人ひとりの身体的、精神的特性に応じた生活支援に努めてきた。

また、入所者が自立した日常生活を営み、社会的活動に参加するために必要な援助も行ってきた。入所後に要介護状態になった場合は、介護保険サービスの利用により入所者と契約を結んだ上で、特定施設が契約している受託居宅サービス事業者(訪問介護・通所介護・訪問リハビリ・福祉用具貸与)が特定施設の計画作成担当者によって策定された介護サービス計画をもとにサービスを提供してきた。

課題としては、自立経営を目指すものの入所者数が伸びず収支均衡が図れていない状況を認識し、節減可能な運営費の削減や新たな経営改善に向けた方策を企てる必要がある。また、入所者の高齢化によるADLの低下から、これまでも居室においてベッドが利用できるよう和室から洋室に改修しているが(現在50室のうち22室洋室)、さらに洋室が必要となってきた。

【事業計画で重点的に取り組んだ項目】

長安寮の運営経費が大幅な赤字となってることから、収支均衡を図るための手法を考える。

【重点的に取り組んだ項目の達成状況】

- 1 収支均衡を図るために尼崎市と事業団職員で構成する養護老人ホーム「長安寮」のあり方検討会を設置し、今後の「長安寮」のあり方(定数、居住環境など)を取りまとめた(別紙参照)
- 2 省エネ対策として、敷地内電灯のLED化・コージェネレーションシステムの導入など、光熱水費の削減をすすめていくこととした。

【事業内容】

1 介護及び生活相談

入所者が抱える生活全般に係る問題について、生活相談員等が個別面接を実施し、入所者の意見を尊重しながら具体的な方策を導き出して問題解決を図った。

また入所者の日常生活上の処遇について、支援員、介護職員及び外部ホームヘルパーを中心に食事、入浴、通院、更衣等において適時必要な援助を行った。

介護が必要な利用者に対しては、個々にケアプランを策定し、ホームヘルパーやデイ

サービスの利用を含め、生活の様々な場面で援助にあたった。

2 栄養指導

管理栄養士が、栄養バランスを考えながら入所者個々の嗜好や摂取量を把握して栄養指導を実施した。また、食を楽しめるよう献立に選択食を実施したり、利用者の栄養必要量等を考え、盛り付け量を分けたり、きざみ、油抜き、減塩等の特別食の提供に努めた。

3 健康管理

入所者に対して嘱託医師による週1回の診察を実施し、健康管理及び助言を行った。また、日常生活面においては看護師をはじめ全職員が入所者の健康状況を把握するとともに、年2回の定期健康診断を実施した。特にインフルエンザの予防および感染症対策に努めた。

4 行事等の実施状況

実施日	内 容	対象者
27. 4. 8	梅園保育園花まつり（雨のため中止）	
5. 4	端午の節句 菖蒲湯	全入所者
5. 19	春の健康診断	全入所者
6. 3	東難波乳児保育所と交流会	全入所者
6. 10	尼崎市保険鍼灸師会慰問	希望者
	地域交流七夕祭り（梅園幼稚園との交流）	
	園児感染性胃腸炎のため中止	
8. 11	長安寮としわ会総会	全入所者
8. 20	地域交流盆踊り大会	全入所者
9. 21	敬老の日の式典	全入所者
9. 25	尼崎市佛教会法要	希望者
10. 2	尼崎市鍼灸マッサージ師会慰問	希望者
10. 7	入所者秋の健康診断	全入所者
10. 29	地域交流演芸大会	全入所者
11. 10	インフルエンザ予防接種	全入所者
11. 12	秋季レクリエーション（尼崎高原ロッジ）・秋の会	全入所者
11. 24	芋掘り（東難波乳児保育所との交流）	全入所者
12. 5	地域交流もちつき大会	全入所者
12. 8	関西電力労組清掃ボランティア	全入所者
12. 15	中央地区老人クラブ連合会慰問	全入所者
12. 17	地域交流クリスマス会・忘年会	全入所者
12. 24	檜の木保育園との交流会	全入所者
1. 1	新年祝賀会	全入所者
1. 15	中央地区地域防災訓練（難波小学校）	希望者
2. 3	節分豆まき	全入所者
2. 9	三枝尚子慰問ナツメロショー	全入所者
2. 24	飯山劇団慰問	全入所者

毎月	誕生日会・華道クラブ・いきいき健康体操・スカットボール	全入所者
随時	生活相談員による個別相談	全入所者

【事業実績】

1 入所者の年齢（平成 28 年 3 月 31 日現在）

年齢 性別	65～ 69 歳	70～ 74 歳	75～ 79 歳	80～ 84 歳	85～ 89 歳	90～ 94 歳	95～ 99 歳	100～ 104 歳	合 計 (名)
男	2	2	5	5	4	0	0	0	18
女	1	6	2	9	10	3	2	0	33
計	3	8	7	14	14	3	2	0	51

2 入所者の介護認定（平成 28 年 3 月 31 日現在）

区分	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計(名)
人数	1	1	12	5	2	0	1	22

3 入所者の措置市町（平成 28 年 3 月 31 日現在）

市町	尼崎市	朝来市	枚方市	大阪市	富田林 市	神戸市	西宮市	安芸 太田町	長崎市	計 (名)
人数	40	1	3	1	1	2	1	1	1	51

4 本年中退所者の退所原因（平成 27 年度）

退所原因	帰郷	他施設	医療機関	死亡	その他	計 (名)
人 数	2	3	6	0	0	11

【職員研修及び会議等】

1 主な研修・会議の参加状況

開催日	内容	場所	参加者
27. 4. 15 6. 5 9. 29 28. 3. 25	企業人権同和教育合同研究会代表幹事会	ベイコム体育館 尼崎市総合文化センター 出屋敷リベル 出屋敷リベル	寮長
5. 21	阪神ブロック老人福祉施設給食担当研修会	明石恵泉福祉会西宮恵泉	栄養士
5. 26	くもん研修	施設内	看護師、介護支援専門員、生活支援員他
5. 26	県老協運営委員会	兵庫県福祉センター	寮長
6. 2 7. 29 28. 1. 12 2. 22	県老協養護部会役員会	兵庫県福祉センター	寮長
6. 15	阪神ブロック養護部会総会	セントポーリア愛の郷	寮長
6. 23	県老協第 27 回定時総会	ホテル北野プラザ六甲荘	寮長
6. 26	阪神ブロック養護部会総会	尼崎市立小田公民館	寮長
7. 2	食品衛生講習会	尼崎市中小企業センター	栄養士
7. 29 10. 30	企業人権同和教育合同研究会研修会	出屋敷リベル	寮長
8. 4	神戸大学医学部地域保健介護実習説明会	神戸大学	寮長
9. 8 28. 1. 18 3. 7	阪神ブロック役員会	セントポーリア愛の郷 ホテル若水 芦屋ルナホール	寮長
9. 25 12. 4	阪神ブロック施設長会	西宮市民会館 三田ウッディタウン市民センター	寮長
10. 9	県老協養護部会第 1 回研修会	兵庫県福祉センター	寮長・生活支援員
10. 21	近老協アンガーマネジメント研修	国民會館	生活支援員
11. 16	平成 27 年度阪神ブロック介護職員部会研修会	特別養護老人ホーム三田さんすい園	生活支援員

11. 19	企業人権同和教育合同研究会グループ研修会	ベイコム体育館	寮長
11. 25	県老協養護部会第2回研修会	兵庫県福祉センター	寮長・生活相談員・生活支援員
28. 1. 13・19	くもんマスター認定講習会	大阪駅前第2ビル他	生活支援員
1. 20	事業団全体研修	尼崎市教育・障害福祉センター	主任、介護支援専門員、生活支援員
2. 4～5	兵庫県老人福祉事業協会平成27年度施設長研修会	神戸メリケンパークオリエンタルホテル	寮長(4日) 生活相談員(5日)
2. 22	県老協養護部会施設長研修会	兵庫県福祉センター	寮長・生活相談員
3. 9	老人福祉施設中堅職員研修	兵庫県社会福祉研修所	生活支援員
3. 16	施設見学	宝塚市内の老人福祉施設	生活支援員

2 毎月全員職員会議を開催

4月30日、5月27日、6月30日、7月30日、8月27日、9月29日、10月20日、11月26日、12月24日、1月28日、2月25日、3月22日

【その他】

非常災害訓練

自衛消防訓練として、平成27年6月20日に日中想定で総合訓練(通報、消火、避難及び防災、ビデオ鑑賞)、10月22日は夜間想定で消火・避難訓練を実施するとともに、尼崎市中消防署員の指導のもと水消火器にて消火訓練を実施した。

尼崎市立身体障害者デイサービスセンター

【総括】

尼崎市から公募による指定管理者として 26 年度から 2 度目の再指定(5 年間)を受け、引き続き障害者総合支援法の生活介護事業に定められた身体能力及び日常生活能力の維持向上を基本とするサービスの提供や送迎サービスを実施した。

当センターの利用者は重度の重複障害者が多く、今後も更に医療的ケア(経管栄養、吸引及び導尿)を必要とする利用者の増加も予想されるため、看護師の非常勤職員配置に加え正規職員も採用し、医療的ケアの体制の強化を図った。

なお、医療的ケアを必要とする利用者は 6 名在籍し、毎日 2 名から 3 名が通所されている。

また、温水プール事業では、平成 27 年度の年間延利用者数は 4,989 名で前年度より 11 名増加した。また登録者数は 158 名で前年度から 43 名の新規登録があった。

【重点的に取り組んだ項目】

- 1 施設内行事だけでなく、近隣地域との交流を進める。
- 2 痰吸引、経管栄養及び導尿の医療的行為を必要とする利用者の受け入れ体制強化を図る。
- 3 利用者数の増員に努める

【目標及び事業計画内容の達成状況】

- 1 近隣地域との交流を進める

市立中央中学校や日新中学校の吹奏楽部を招待し演奏会の開催、また地域のボランティアによるアンサンブル演奏や人形劇を通して近隣地域との交流を深めると共に、障害者デイサービスセンターの施設 PR を行った。

- 2 医療的行為が必要な利用者の受け入れ体制強化

医療的ケアを必要とする利用者が今後においても増える事が予想されるため、看護師の非常勤職員 2 名配置に加え正規職員 1 名も採用し、医療的ケアの体制の強化を図った。

医療的ケアを必要とする利用者は 6 名在籍(3 月 31 日現在)し、また希望者 1 名が待機している状況である。平成 28 年度に速やかに通所利用を進めていく。

- 3 利用者数の増員に努める

施設行事と重なった場合は振替による通所を実施したり、利用者の週 3 日通所の促進を引き続き図った。

【事業内容】

1 生活介護事業

社会参加の促進と家族の介護負担の軽減を目的に、利用者の日中活動の場として、利用者との契約に基づきサービス提供を行った。そして、定期的にカンファレンスを実施して個別支援計画を見直し、より良いサービスの提供に努めた。

(1) 健康管理・医療的ケアの実施

毎回の利用時に体温・血圧・脈拍の測定により当日の健康状態を確認し、月に1回体重測定を行った。また、必要に応じて家族・関係機関と連携を図る等利用者の健康管理に努めた。

医療的ケアについては6名の利用者に対して行った。ケアの内容では、経管栄養4名、吸引3名及び導尿1名であった。(複数のケアを必要とする利用者2名)

(2) 食事支援

献立については、毎月メニュー内容や食材のチェックを行った。食事形態については、利用者の咀嚼嚥下能力に応じて「おかゆ」や「きざみ食」「極きざみ食」「ミキサー食」等を提供した。

(3) 排泄支援

プライバシーを確保し、排泄誘導の回数や排泄時間のタイミング等について本人の意向を尊重して行った。

(4) 入浴支援

入浴を希望される利用者は、入浴困難な利用者も多いため、行事日でも入浴できるようタイムスケジュールを工夫して行った。

(5) 社会参加活動

年間行事の中で、外食・買い物の機会を設けたり、近隣の喫茶店の利用の機会を設けた。また、遠足では神戸どうぶつ王国に出かける等、社会環境を知る一助とした。

(6) レクリエーション活動

季節行事として、花見・夏まつり・クリスマス会・成人の祝い等を実施した。また、外部講師を依頼し「音楽療法」を通して音楽を楽しむ機会、「セラピードッグ」を通して動物と触れ合う機会、「車いすダンス」を通して音楽に合わせて動く感覚を経験する機会を設けた。

地域との交流活動として市内で活動しているグループの方に演奏会や人形劇を依頼して行った。また、地域の公立中学校の吹奏楽部を招待して演奏会を行った。

(7) 創作的活動

個人の必要度に応じて、手芸・絵画・折り紙等を行った。

(8) スポーツ活動

身体運動能力を考慮した道具や方法で、ボウリング・ボッチャ・風船バレー等のゲームを行った。

(9) プール活動（希望者に対して）

当センターの介護員と、身体障害者福祉センター体育指導員の派遣協力や、外部から助手を依頼することにより行った。

(10) 機能訓練（希望者に対して）

身体運動能力の維持・改善を目的に、理学療法士が個別にメニューを作成し、介護職員が行った。また、身体障害者福祉センターやたじかの園の理学療法士や言語療法士に協力を依頼し、アドバイスを受けた。

(11) 送迎

4台のリフト付き車両で、運転職員と介護職員の2名で行った。また、吸引を必要とする利用者の送迎については、看護師が添乗した。

2 温水プール事業

「尼崎市遊泳用プール指導要綱」に基づき、水質基準の維持・設備等の維持管理・衛生管理を遵守して実施した。

【事業実績】

1 生活介護事業

(1) 在籍状況(平成28年3月31日現在)

契約者数 38名、週3日通所 10名、週2日通所 12名、週1日通所 16名
新規契約 4名、契約終了 3名（死亡・他施設利用）

(2) 利用状況

ア 生活介護

年間延利用者数 2,743名、1日平均利用者 11.2名
（前年度は、年間延利用者数 2,789名、1日平均利用者 11.4名）

イ 入浴サービス

年間延べ利用者 1,704名、1日平均利用者 7.0名
（前年度は、年間延べ利用者は 1,748名、1日平均利用者 7.1名）

ウ 送迎サービス

年間送迎回数 5,300回（片道を1回）
（前年度は、年間送迎回数 5,374回）

(3) 月別利用者数状況（契約者数は毎月1日現在の実数）

	開所日数	予定人数	利用件数	入浴件数	平均利用	平均入浴	送迎	給食	ンス カン フレ	契約者数
4月	21	303	242	149	11.52	7.10	462	231	4	38
5月	20	287	225	143	11.25	7.15	434	217	7	39
6月	21	311	260	164	12.38	7.81	500	250	11	39
7月	22	327	260	168	11.82	7.64	506	253	10	39
8月	21	309	245	151	11.67	7.19	480	234	18	39

9月	20	288	231	149	11.55	7.45	446	221	11	38
10月	22	279	213	121	9.68	5.50	421	176	9	38
11月	18	240	197	130	10.94	7.22	383	186	6	37
12月	19	242	195	117	10.26	6.16	371	183	8	37
1月	19	255	219	135	11.53	7.11	425	205	3	37
2月	19	255	209	124	11.00	6.53	403	198	13	0
3月	22	295	247	153	11.23	6.95	469	233	16	0
合計	244	3,391	2,743	1,704	11.24	6.98	5,300	2,587	116	

(4) 曜日別利用者数 (単位：人)

	火	水	木	金	土	計
4月	14	17	14	14	13	72
5月	14	17	14	15	13	73
6月	15	17	14	15	13	74
7月	15	17	14	15	13	74
8月	15	16	12	15	13	71
9月	15	16	12	15	13	71
10月	15	16	12	15	13	71
11月	13	15	13	13	13	67
12月	13	15	13	13	13	67
1月	13	15	13	13	13	67
2月	13	15	13	13	13	67
3月	13	15	13	13	13	67

(5) 利用者の身体状況

主な疾患は「脳性麻痺」で約7割を占める。障害支援区分5・6の常時介護が必要な利用者は33名(86.8%)であった。

① 障害支援区分（平成28年3月31日現在）

	6	6	4	3	計
人数	26	7	3	2	38
%	68.4%	18.4%	7.9%	5.3%	

② 手帳所持状況（平成28年3月31日現在）

身体障害者手帳			療育手帳		
等級	人数	%	等級	人数	%
1級	35	92.1%	A	32	84.2%
2級	1	2.6%	B 1	1	2.6%
3級	2	5.3%	B 2	0	0.0%
			なし	5	13.2%
計	38		計	38	

(6) 利用者在籍期間（平成28年3月31日現在）

利用期間	～3年未満	～5年未満	～7年未満	～10年未満	10年以上	計
人数	13	2	1	2	20	38

(7) 行事実施状況

	行事名	実施日数	延べ人数
4月	お花見	5日	32人
5月	お出かけ会	7日	19人
6月	お出かけ会	8日	19人
7月	夏まつり	5日	58人
8月			
9月	お茶会	5日	58人
10月	遠足（神戸どうぶつ王国）	4日	28日
11月			
12月	クリスマス会	5日	51人
1月	成人の祝い	1日	13人
2月	お茶会（喫茶店）	2日	6人
3月	お茶会（喫茶店）	5日	19人

(8) 外部講師による活動実施状況

	車いすダンス		音楽療法		セラピードッグ	
	実施日数	延人数	実施日数	延人数	実施日数	延人数
4月						
5月			2日	22		
6月			-	-		
7月			3日	35	1日	15
8月			3日	35	2日	23
9月			1日	11	1日	12
10月			4日	41	1日	10
11月	1日	12	4日	43	1日	12
12月	3日	32	-	-	1日	9
1月	2日	24	4日	45	1日	11
2月	2日	21	2日	24	1日	10
3月	2日	24	2日	21	1日	12
計	10日	113	25日	277	10日	114

2 温水プール事業

(1) 前年度から43名の新規登録があり、平成27年度の登録者数は平成28年3月31日現在で158名。

(2) 年間延利用者数は、身体障害者3,774名、知的障害者314名、介護者901名、計4,989名。

(3) 月別利用者数状況 (単位：人)

	開所日数	身体	療育	付添	合計
4月	21	327	20	73	420
5月	16	299	30	86	415
6月	21	365	43	112	520
7月	22	404	37	115	556
8月	16	325	33	90	448
9月	20	377	38	92	507
10月	22	425	27	82	534
11月	18	337	22	55	414
12月	8	131	11	30	172
1月	16	216	18	44	278
2月	19	259	18	56	333
3月	22	309	17	66	392
合計	221	3,774	314	901	4,989

(4) 登録者数推移 (単位:人) (平成26年4月1日より登録更新を行った)

	身体障害者手帳所持者		療育手帳所持者		合 計
	男	女	男	女	
4月	42	55	12	11	120
5月	44	57	14	12	127
6月	45	59	14	12	130
7月	46	59	17	14	136
8月	48	60	18	15	141
9月	49	65	21	18	153
10月	49	65	21	18	153
11月	49	65	21	19	154
12月	50	65	21	19	155
1月	50	65	21	19	155
2月	51	65	21	19	156
3月	52	66	21	19	158

3 地域との交流活動

1月16日(土)	尼崎市立中央中学校	教師1名 生徒20名 生徒保護者8名 利用者10名
3月30日(水)	尼崎市立日新中学校	教師2名 生徒20名 生徒保護者3名 利用者11名

4 ボランティア協力による活動

9月23日(祝)	アンサンブル演奏会	ボランティア5名 利用者13名
3月15日(火)	人形劇	ボランティア5名 利用者10名

5 消防訓練

月日	曜日	実施内容	人数
4月28日	火	火災避難(1階厨房)	21
5月16日	土	火災避難(2階介護室)	18
6月18日	木	火災避難(2階介護室)	24
7月10日	金	火災避難(2階入浴室)	23
8月13日	木	火災避難(2階介護室)	17
9月30日	水	火災避難・消火(1階ボイラー室)	14
10月31日	土	火災避難(1階厨房)	17
11月25日	水	消防署との合同訓練 火災避難(1階厨房)	33
12月18日	金	火災避難(2階介護室)	15
1月30日	土	火災避難(2階入浴室)	18

2月16日	火	火災避難（2階介護室）	20
3月31日	木	火災避難（2階入浴室）	12

6 関係機関との連携

8月19日	利用者合同カンファレンス	小曾根病院(豊中市)	看護師
2月3日	利用者合同カンファレンス	尼崎養護学校	所長・指導員
3月9日	尼崎養護学校移行支援会議	教育総合センター	所長・指導員2人

7 尼崎養護学校との連携について

- (1) 見学説明会 受入れ12名（7月3日、11月27日、12月2日）
- (2) 1日体験実習 受入れ3名（11月27日、12月2日、12月4日）
- (3) 移行支援会議 参加3名

【職員研修及び会議等】

1 研修会・講習会への参加状況

実施日	内 容	場 所	参 加 者
4月23日	救命講習	尼崎市北部防災センター	介護員2名
6月25日	救命講習	尼崎市北部防災センター	所長
10月7日	看護職員研修(障害コース)	兵庫県社会福祉研修所	看護師
12月17日	全事協近畿ブロック社会福祉事業団「意識改革を促進する研修」	シティプラザ大阪	所長
1月13日	全体職員研修「苦情処理にあたっての心構え」	尼崎学園	所長、介護員、事務員
1月20日	全体職員研修「苦情処理にあたっての心構え」	身体障害者福祉センター	看護師、介護員3名
1月28日	救命講習	尼崎市北部防災センター	介護員
2月25日	救命講習	尼崎市北部防災センター	運転手
3月18日	障害者総合支援法等関係事業者説明会	神戸文化ホール	事務員

2 施設内勉強会

研修参加者による伝達勉強会	5回
救命講習（自主学习）	4回

【その他】

1 非常災害訓練

- (1) 自衛消防訓練（避難・消火・地震避難） 月に1回
- (2) 消防署との合同総合訓練（通報・避難・消火訓練） 11月25日(水)

月日	曜日	実施内容	人数
4月28日	火	火災避難（1階厨房）	21
5月16日	土	火災避難（2階介護室）	18
6月18日	木	火災避難（2階介護室）	24
7月10日	金	火災避難（2階入浴室）	23
8月13日	木	火災避難（2階介護室）	17
9月30日	水	火災避難・消火（1階ボイラー室）	14
10月31日	土	火災避難（1階厨房）	17
11月25日	水	消防署との合同訓練 火災避難（1階厨房）	33
12月18日	金	火災避難（2階介護室）	15
1月30日	土	火災避難（2階入浴室）	18
2月16日	火	火災避難（2階介護室）	20
3月31日	木	火災避難（2階入浴室）	12

尼崎市立あこや学園

【総括】

- 1 阪神間他市で総合療育センター機能が図られる流れの中、困難な課題もあるが、たじかの園と協議、連携し、障害児等療育支援事業等、現状で連携できる方策を増やしていきけるよう取り組んだ。児童発達支援センター機能を高めるための取り組みは、少しずつだが前進しつつある。
- 2 児童虐待防止を含め、より良い児童の進路や家庭環境改善のため、関係機関との情報交換や家族支援に努めた。

【事業計画で重点的に取り組んだ項目】

- 1 在園児童の生活環境を整えるため、関係機関との連絡調整に努める。
- 2 サービス等利用計画・障害児支援利用計画の作成を徹底する。
- 3 産休・育休の代替職員を含め、職員連携に努める。
- 4 児童発達支援センター機能を高めるため、相談支援体制の充実を図る。
- 5 保護者アンケートにより、保護者の登園回数が多い等の指摘があり、検討する。

【重点的に取り組んだ項目の達成状況】

- 1 例年、秋に行っている「関係機関懇談会」の他、必要に応じ、家庭児童相談員、保健師等及び市内の児童発達支援事業所と連携を図り、在園児童の生活環境およびニーズの把握に努めた。また、「就学前後にかかる子どもの発達支援連絡会」を通し、広く、発達の支援を要する子ども達への早期対応を目指す取り組みを行った。
- 2 新入園児及び在園児の障害児支援利用計画の作成に努めたが、施設内相談支援専門員が一人であり、年末に産休に入り、代替職員の補充に困窮したため、十分な進捗には至らなかった。
- 3 昨年度は職員の産休・育休が5人重なり、クラス運営が危ぶまれたが、経験のある代替職員により、職員全体の連携が図られた。また、相談支援事業では施設外の事業所の応援により実効性が保てた。
- 4 相談支援体制の充実に向け、組織改編及び人員改善を含め、施設の壁を越えて検討し、今年度の新体制に向けて準備できた。
- 5 次年度の火曜日保育の実施回数を27回から20回に減らし、実施日を他の行事と調整した。兄弟児の託児については、さまざま検討したが打開策は見いだせなかった。

【事業内容】

- 1 発達支援

(1) 保育

一人ひとりの特性や発達段階に配慮しながら、生活や遊びを通して子どもたちの発達を支援した。

① 丈夫な身体をつくる

合同体操、運動遊び、リズム遊び、園庭での遊び、散歩、給食、水遊び、プール遊び及びバス停まで歩くなどの活動を通して、体幹をしっかりさせ、生活リズムの確立をめざした。

② 感情を豊かに表現する

ア 母子関係を確立する。

イ 親や身近な大人（職員）や友だちとの共感関係を育てる。

ウ いろいろな遊びの経験を通して、心の中で考えたり思考する内言語を豊かにする。

エ ボディランゲージに応えたり、豊かな経験を通して自信や意欲を育てる。

③ 基本的生活習慣を身につける

規則正しい生活リズムの確立、食事指導、排泄指導、衣服の着脱指導等を行った。

(2) 発達検査

発達支援を目的として、年1回臨床心理士が発達検査を実施した。また、保育場面を参考に運動面・社会面・言語面・認知面など各領域の発達課題を見つけ、個別懇談を通して保護者に伝えた。

(3) 言語相談

言語面の発達を支援するため、言語聴覚士が週2日、個別言語相談・指導を行い、発声や摂食の機能を高めるよう努めた。また、マカトンサイン等を用いてコミュニケーション意欲を高めるよう努めた。

(4) 給食・栄養相談

栄養バランスのよい食事を提供し、皆で一緒に楽しく食事することで基本的な食習慣が身につくよう努めた。献立は、季節感のある食材や園で育てた野菜を使用し、食材の味を活かすよう努め、個々の園児に合わせ、きざみ食やミキサー食を用意した。食物アレルギー児に対しては医師の指示書に従い、代替食、除去食を提供した。たじかの園の作業療法士等の助言を基に食事姿勢や食器等の改善に努めた。

また、家庭での食事に関して管理栄養士が栄養相談を実施し、肥満や偏食の改善法をともに考えた。

(5) 健康管理

園児が心身ともに健康な毎日を過ごせるよう、年2回の健康診断を実施する他、常に健康状態を把握し、特にてんかん発作等の健康管理に努めた。また、口腔衛生センター歯科医や歯科衛生士による歯磨き指導ボランティアを年4回受けた。

2 家族支援

(1) 精神神経科の嘱託医による相談

新入園児の保護者を対象に医療面でのアドバイスや子育ての療育相談を実施した。

(2) クラス担任による個人懇談およびクラス懇談を各学期に実施し、子どもの発達状況や進路等について話し合った。

(3) フリートーキング

母親一日保育の中で、クラスの枠を越えて育児における悩みや思いを共有し、親同士の関係づくりができるようフリートーキングを実施した。

3 地域支援

(1) 園児が利用する他の児童発達支援事業所や進路先の小学校、保育園等との情報の引き継ぎ等、連携に努めた。

(2) 関係機関懇談会

保健センター、特別支援学校、児童発達支援事業所等に、あこや学園の療育を知ってもらい、今後の連携のため情報交換を行った。

4 その他

(1) 障害児相談支援

障害のある方やその家族からのさまざまな相談に応じ、児童発達支援、保育所等訪問支援および放課後等デイサービスなどの利用の際に障害児支援利用計画を作成した。

(2) 保育所等訪問支援

保育所等訪問支援計画に基づき、月1回程度、障害児が集団生活を営む施設（保育所、小学校等）を訪問し、集団生活の場で生活しやすくなるよう、かかわりの工夫や配慮点を保護者や担当の先生と一緒に考えた。

【事業実績】

1 月別在籍児童数

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
初日在籍児童数	52	52	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	延べ 614
入園児童数	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18
卒・退園児童数	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	17

2 障害の原因及び病名

原因及び病名	性別	男					女					合計
	年齢	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	小計	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	小計	
知的障害		0	2	3	0	5	0	0	3	2	5	10
自閉症スペクトラム症候群		0	3	6	2	11	0	1	2	0	3	14
広汎性発達障害		0	0	1	1	2	0	0	1	0	1	3

ダウン症候群	2	3	0	2	7	0	1	0	0	1	8
その他の先天性障害	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1
その他・未診断	4	4	2	3	13	2	0	0	0	2	15
計	6	12	13	8	39	2	2	6	2	12	51

【職員研修及び会議等】

外部職員研修は研修報告書により全職員に回覧しているが、特に職員の関心が高いものについては職員会で研修報告を行っている。

尼崎市自立支援協議会あまっこ部会及びあまがさき相談支援連絡会で作成された「あまっこファイル」の周知に努めた。

※職員研修及び会議等の参加状況の詳細は資料編参照。

【その他】

非常災害訓練を次のとおり行った。

- 1 総合消防訓練 27年6月18日、11月9日
- 2 自衛消防訓練 27年4月27日、5月15日、7月13日、8月25日、
9月14日、10月26日、12月21日、28年1月25日、
2月15日、3月17日